

平成29年度 文部科学省補助事業
彦根市「学校・家庭・地域 連携協力推進事業」

地域学校協働本部事業 地域未来塾事業

実践事例集



彦根市教育委員会

目 次

1	彦根市の事業概要と経緯・状況について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	各校の地域学校協働本部事業の取組	
	東中学校 「子どもたちの笑顔のために～できる人が できるときに できることを～」・	6
	城東小学校 「伝統を引き継ごう～マーチングバンド活動の充実に向けて～」・	7
	佐和山小学校 「地域と共に、子ども達のグローバル資質を育てる」・	8
	旭森小学校 「地域の人材を活かした旭森教育をつくる」・	9
	西中学校 「教職員とのコミュニケーションを図り、生徒・学校・地域の関係が見える活動」	10
	城西小学校 「地域と共に、豊かな学びをめざして」・	11
	城北小学校 「縦割り班で地域から学び、郷土への愛着心を育てる『ふるさと探訪オリエンテーリング』」・	12
	中央中学校 「学校と地域を結び SCHOOL SUPPORT」・	13
	平田小学校 「心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり」・	14
	金城小学校 「学校と地域の『豊かなつながり』」・	15
	南中学校 「彦根南サポートオフィス7年目の取組～継続は力～」・	16
	城南小学校 「地域とともに豊かな学びをめざして～学校と地域で作る子供の学び～」・	17
	城陽小学校 「つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～地域の力で学びを深める～」・	18
	亀山小学校 「We Love かめやま」・	19
	彦根中学校 「地域と学校・生徒で創る地域活動・・・地域のお役に立てる彦中生！」・	20
	河瀬小学校 「地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～」・	21
	高宮小学校 「わたしたちの町 高宮 『かぼちゃ踊り』 ～地域のよさを味わう 伝統を受け継ぐ～」・	22
	鳥居本中学校 「鳥居本学校サポートオフィスの取組」・	23
	鳥居本小学校 「『ふるさとに生きる喜びを』 地域とつながる体験活動の支援」・	24
	稲枝中学校 「地域の人と一緒に栽培活動をして生きる力を学ぶ」・	25
	稲枝東小学校 「子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動」・	26
	稲枝北小学校 「ふるさとに誇りをもち未来をひらく『いなむらっ子』の育成をめざして」	27
	稲枝西小学校 「『ALLはえみ』 地域とともに 学びの充実をめざして」・	28
	若葉小学校 「『子どもたちの笑顔のために』 チームわかバンクの大きな一歩」・	29
3	各校の地域未来塾事業の取組	
	東中学校 「外国にルーツをもつ生徒の学習支援」と「課題にあわせた放課後学習会」・	30
	西中学校 「地域の人材を活かして西中教育をつくる『楽習広場』」	32
	中央中学校 「土曜学習支援『土曜教室 てみる』」と「学び育ち教室『LL教室』」・	33
	南中学校 「放課後学習『水曜ゼミ』～基礎学力を高めて目指す進路を実現しよう！～」・	35
	彦根中学校 「3年放課後学習会&3年放課後学習スペース」・	36
	鳥居本中学校 「地域未来塾の取組」・	37
	稲枝中学校 「自らの進路の展望と学力向上を地域の大学生から学ぶ取組」・	38
4	資料 彦根市学校・家庭・地域連携協力推進事業実行委員会設置要綱	39
	実行委員名簿	41
	平成29年度 彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿	42

『彦根市地域学校協働本部事業・地域未来塾事業』

彦根市教育委員会事務局教育部生涯学習課

□事業の概要

- ・幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を推進し、学校と地域との連携体制の構築を図る。
- ・地域住民が自らの経験や知識を活かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化など、地域づくりにつなぐ。
- ・平成 29 年度から実施する地域未来塾では、中学生を対象に放課後や土曜日等に教員ＯＢや大学生など地域住民の協力による学習支援を実施する。この取組で学力向上を図るとともに、家庭の事情により、家庭学習が困難であったり、学習習慣が身についていなかったりする中学生への支援にもつなげる。
- ・7 中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校支援地域協議会に委託して実施する。

□取組の経緯・状況

- ① 平成 20 年度～平成 22 年度 3 年間の文部科学省委託事業
平成 20 年度 東、稲枝 市内 2 中学校区で事業が始まる。
平成 21 年度 東、西、鳥居本、稲枝 市内 4 中学校区に拡大実施



- ② 平成 23 年度から 市の事業（国・県・市 1/3 ずつ負担） 市内全 7 中学校区で実施



- ③ 平成 24 年度
- ・市内 7 中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）
 - ・予算 4,734,000 円（補助金 3,156,000 円）
 - ・実行委員会の開催（年 3 回）
 - 7 月 31 日（火）10:00～11:30 事業説明・実践交流
 - 11 月 29 日（木）14:00～16:00 研修会・実践交流
 - 3 月 1 日（金）14:30～16:30 実践のまとめ・振り返り
 - ・H24 年度の取組重点
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
 - ・学校訪問 11 月 7 中学校訪問



- ④ 平成 25 年度
- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
（従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝）
 - ・予算 4,583,000 円（補助金 3,055,000 円）
 - ・実行委員会の開催（年 3 回）
 - 構成委員：15 名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）
 - 8 月 2 日（金）14:00～15:30 事業説明・実践交流
 - 11 月 28 日（木）9:30～11:30 研修会・実践交流
 - 3 月 4 日（火）9:30～11:30 実践報告・振り返り
 - ・H25 年度の取組重点（継続）
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
 - ・学校訪問 11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑤ 平成 26 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝)
- ・予算 4,613,000 円 (補助金 3,075,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 3 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
8 月 4 日 (月) 14:00～15:50 事業説明・実践交流
11 月 26 日 (水) 9:30～11:40 研修会・実践交流
3 月 2 日 (月) 9:30～11:30 実践報告・振り返り
- ・H26 年度 of 取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問
11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・平成 26 年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰
被表彰団体；彦根市学校支援地域本部
12 月 8 日 (月) 文部科学省東館 3 階講堂 (東京都千代田区霞が関 3-2-2)



⑥ 平成 27 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝)
- ・予算 4,633,000 円 (補助金 3,075,000 円→2,226,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 3 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
8 月 4 日 (火) 9:30～11:30 事業説明・実践交流
11 月 30 日 (月) 9:30～11:30 研修会 (TKJ 演習)・実践交流
2 月 25 日 (木) 14:00～16:00 実践報告・振り返り
- ・H27 年度 of 取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
- ・学校訪問
11 月 7 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑦ 平成 28 年度

- ・市内 7 中学校区支援地域協議会 (東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)
- ・学校支援地域本部事業予算 4,632,000 円 (補助金 3,088,000 円)
- ・土曜学習支援事業予算 450,000 円 (補助金 300,000 円)
- ・実行委員会の開催 (年 2 回)
構成委員：15 名＋事務局 (生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)
7 月 12 日 (火) 9:30～11:30 事業説明・実践交流
2 月 9 日 (木) 9:30～11:30 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・コーディネーター連絡会の開催 12 月 22 日 (木) 14:00～16:00
- ・H28 年度 of 取組重点 (継続)
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
学校支援に学校と地域の連携・協働活動を加える。
- ・学校訪問

10月～11月 7中学校訪問

学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑧ 平成29年度

- ・市内7中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 4,410,000円（補助金2,940,000円）
- ・地域未来塾事業予算 2,295,000円（補助金1,530,000円）
- ・実行委員会の開催（年2回）

構成委員：18名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

7月14日（金） 9:30～11:30 事業説明・実践交流

1月29日（月） 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

- ・H29年度の取組重点

学校と地域の連携・協働活動の推進

（学校と地域の連携強化 地域のネットワークの拡充）

- ・学校訪問

10月～11月 7中学校と若葉小学校訪問

地域学校協働本部事業と地域未来塾事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

- ・コーディネーター研修会および連絡会の開催

12月22日（金） 14:00～16:00

講師 湖南省市立菩提寺小学校地域コーディネーター兼学校運営協議会理事

安部 正毅 氏 「地域コーディネーターに必要なこと」

□成果と課題

<成果>

- 実践報告の中で「地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。」と答えた学校が、小中学校全24校中21校あり、地域ボランティアの活動が定着してきたと言える。
- 実践報告の中で「地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。」と答えた学校が、小中学校全24校中20校ある。地域ボランティアが、学校と協働して子どもたちの成長を見守り育てていることがわかる。
- 多くの本部で地域コーディネーターが中心になり、子どもの様子や協働活動の取組内容を地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。
- 地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。
- 地域の方が中心になって学習支援やボランティア活動を行っている本部では、支援員同士が交流することで、地域のつながりの強化や支援員の生きがいつくりに資することができた。
- 地域未来塾が学習の支援だけでなく、生徒の心の居場所の役割を果たしていた。

<課題>

- 実践報告の中で「地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。」と答えた学校は、小中学校全24校中5校にとどまった。地域コーディネーターを中心にした地域住民と学校関係者が連携・協働して取組を進めるための仕組みを考えていく必要がある。
- 事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化している傾向がある。支援のネットワーク化を図り、新たな人材を確保していくことが重要である。
- 地域未来塾の学習支援員の確保が大きな課題となっている学校がある。学習支援員の確保には、今後も事務局と学校が連携をして取り組んでいく。

彦根市における地域学校協働本部の取組

■ 目指す姿

○幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■ 本年度の具体的活動

(1) 実行委員会の開催（年2回）

構成委員：18名（各中学校管理職、CS管理職、地域コーディネーター、学び育ち教室コーディネーター、彦根市PTA連絡協議会会長）事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

7月14日（金）：事業説明・各本部の実践交流

事業説明の中で、「学校支援」から「地域学校協働」へと変わった経緯等に触れ、地域と学校が今まで以上に連携を密にして共に活動することの重要性を啓発した。また、実践交流の中で今年度から新たに実行委員となった彦根市で唯一のCSである若葉小学校の校長から取組を紹介していただき、彦根市のCSの活動について周知を図った。

1月29日（月）：各本部の実践交流・次年度の計画

(2) 10・11月：学校訪問

7中学校とCSの1小学校訪問 事業の進捗状況把握、今後の取組の確認

(3) 12月22日（金）：地域コーディネーター研修会および連絡会の開催

研修会：講師 湖南省立菩提寺小学校運営協議会理事 兼 地域コーディネーター 安部 正毅氏
演題 「地域コーディネーターに必要なこと」

連絡会：今年度の取組と次年度に向けての情報交流、事務局からの指示連絡等

■ 本年度の成果

- 全小中学校で取組が浸透し、地域住民が学校内外で子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかわりができた。
- 地域コーディネーターが中心になり、子どもの様子や協働活動の取組内容が、地域へ発信できた。
周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。
- 地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。

■ 課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- 地域コーディネーターと学校関係者が連携を密にして、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発
- 事業を支える支援ボランティアの確保
- 地域学校協働活動の推進を図るための研修方法

彦根市における地域未来塾の取組

■ 目指す姿

○地域未来塾では、中学生を対象に放課後や土曜日等に教員OBや大学生など地域住民の協力による学習支援を実施する。この取組で、学力向上を図るとともに、家庭の事情により、家庭学習が困難であったり、学習習慣が身につけていなかったりする中学生への支援につなげる。また、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■ 本年度の具体的活動

(1) 実行委員会の開催（年2回）

構成委員：18名（各中学校管理職、CS管理職、地域コーディネーター、学び育ち教室コーディネーター、彦根市PTA連絡協議会会長）事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

7月14日（金）：事業説明・各教室の実践交流

1月29日（月）：各教室の実践交流・次年度の計画

(2) 10・11月：学校訪問

7中学校（9教室）を訪問 事業の進捗状況把握、今後の取組の確認

(3) 12月22日（金）：地域コーディネーター研修会および連絡会の開催

研修会：講師 湖南省立菩提寺小学校運営協議会理事 兼 地域コーディネーター 安部 正毅氏
演題 「地域コーディネーターに必要なこと」

連絡会：今年度の取組と次年度に向けての情報交流、事務局からの指示連絡等

■ 本年度の成果

○学習支援員の安定的確保のために、市内すべての学習支援員の時給単価を統一して、様々な機会を活用して募集を行った。募集活動を行うことで各方面に地域未来塾の周知を図ることができた。

○地域未来塾が学習の支援だけでなく、生徒の心の居場所の役割を果たしていた。

○地域の方が中心になって学習支援を行っている教室では、学習支援員同士が交流することで、地域のつながりの強化や支援員の生きがいつくりにも資することができた。

○地域コーディネーターが中心になり、子どもの取組の様子等が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。

○地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。

■ 課題と今後の学習支援活動に向けて

○地域コーディネーターと学校関係者が連携を密にして、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発

○事業を支える学習支援員を安定的に確保するための工夫

○学習支援を必要とする生徒が参加しやすい環境づくり

■ その他

○彦根市における特色ある活動内容の例

・地域コーディネーターが全校生徒に募集して地域未来塾を開設し、「学校と一緒に教育を考える」スタンスで地域の方たちの手による教室運営を実施。

・複数校生徒を対象に、公民館を使って週1回19時から開設。

・地域コーディネーターが中心になって毎週土曜日に開設。

子どもたちの笑顔のために～できる人が できるときに できることを～ （東中学校）

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
東中学校区地域学校協働本部・東中学校	ボランティア登録数	57 人
関係する学校 城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校・東中学校	開 始 年 度	平成 20 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印		
■学習支援員（土曜教室） ■地域未来塾以外の学習支援（授業援助、学力補充、読み聞かせ等）		
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 □子どもの安全確保、見守り ■部活動支援		
□学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）		
■郷土学習 □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □その他〔 〕		

■ 活動の概要

平成 20 年 9 月より彦根市で初めて学校支援地域本部事業の指定を受け、その後継続して事業を推進している。今年度も 1 名の地域コーディネーターによりこれまでの活動を生かして活動を進めている。本校では「生徒に寄り添う学習支援」に重点を置きながら中学校として特徴的な活動として「学習支援活動」「読み聞かせ活動」「図書整備活動」「部活動の指導」「土曜学習支援・AKB（英語検定バッチリ）」と幅広く支援を行っている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動内容）

○読み聞かせ・図書整備活動

朝読書の時間に地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。クラスで学期に 1 回の計画を立て、学年を A 団、B 団の 2 つに分けて 1 学年から順次実施している。年間を通してどの作品がよいかを学年ごとに創意工夫し、幅広い作品を準備していただいている。また、図書室の新刊図書の登録作業や図書の整備などの支援もしていただいている。地域コーディネーターにより図書ボランティアを募り、16 名のボランティアの方が当番制で毎日昼休みに図書室を開き、生徒の貸し出し等の利用を可能にしている。

○ゲストティーチャーによる授業・公演

2 年生では沖縄学習旅行にむけての事前学習で、地域コーディネーターの仲介により沖縄の八重山民謡を演奏する団体「鳩間ファミリー」と交渉し、学校において民謡と踊りを中心とした公演を開催した。また、1 年生では「仕事人と語ろう」で 11 の職種の方々を招き職業講話をもつことで将来の進路について考えるよい機会となった。

○体育大会での支援 ボランティアの募集により 4 名の保護者にゼッケンを縫いつける作業の補助をしてもらった。

○部活動の指導補助 卓球部、サッカー部、水泳部、吹奏楽部、美術部、書道部において、活動補助として放課後や休日に専門的な指導をしていただいている。運動部・文化部共に技術面の向上により各種の大会で好成績を収めている。

■ 土曜学習の活動内容

・概要と目的 土曜学習講座 AKB（英語検定バッチリ講座）では、子どもたちの学力向上、とりわけ英語力アップを目指し、英語検定 3 級・4 級の取得を目標に受検者の学習を支援するためボランティアの方による授業を行っている。

・支援員数と属性 1 名（元教員 1 名）

・学習形態、持ち方と実施日数 希望者を募り希望多数の場合は抽選で受講者を決定し、テキスト教材を準備し、級別に時間を分けて講義形式と個別の指導形態で講座を開いている。級別に土曜の午後、1 時間半程度を設定。英検実施日の 1 か月前から 6 回程度実施している。子どもの平均参加人数は、3 級 9 人、4 級 10 人。

■ 実施に当たっての工夫

年度当初の職員会議で、地域コーディネーターの方から今年度の事業計画を説明していただき、この活動のねらいを全職員が理解した上で取り組んでいる。また教師からの要望をアンケートで聞き取り、活動に生かしている。どの活動も地域コーディネーターを中心に連絡を密にし、急な変更にも素早く対応していただいている。

■ 事業の成果

図書整備活動と毎日昼休みに図書室を開館することで、利用する生徒が増加し、読書習慣が身についてきている。また、ゲストティーチャーとして沖縄の鳩間ファミリーにきていただいたことで、沖縄の文化をより身近に感じる事ができた。AKB（英語検定バッチリ講座）では、毎回多くの合格者を出しており級の取得率が高くなっている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

各学年や校内事情を考慮してもらいながらボランティアの方々に来ていただいているが、人数や時間調整が難しくなかなかなるわれない日もある。「本部だより」等でその実態を伝え運営が多様化できるようボランティア登録を増やしていく必要がある。また、より効率よく学校とつながっていくために地域と教員との連携を進め、この活動を発展させていきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて

（○）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

（ ）地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

（○）地域と学校がどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。



【沖縄民謡の公演】

伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンドの活動の充実に向けて～

(城東小学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
東中学区地域学校協働本部 (城東小学校マーチングバンド)	ボランティア登録数	3 人
関係する学校 城東小学校・東中学校・佐和山小学校・旭森小学校	開 始 年 度	平成 23 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 ■学習支援員 (夏休みの学力補充) ■地域未来塾以外の学習支援 (授業補助、学力補充、読み聞かせ等) ■図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要 ※実施した活動内容全てに■印

○活動のねらい

- ・マーチングバンドの演奏を通して豊かな情操を養うとともに、5・6年生が交流することを通して学校の伝統を大切にしていこうとする気持ちをはぐくむ。
- ・マーチングバンドの演奏を通して、演奏技能の上達を図りながら、みんなでよい音楽発表を創り出そうという課題をもち、音の出し方や演奏の仕方などを工夫して活動することができる。
- ・日々の練習や学校行事、地域行事への参加などの活動を通して、学校の伝統を誇りにする気持ちをはぐくみ、学校への愛着を深める。

○編成と指導体制

- ・マーチングバンドは、6年生 (後期は5年生) 児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の6校時に練習を行っている。
- ・教職員が分担して指導 (前期9名、後期9名) にあたり、年間30時間程度活動している。
- ・外部から、ボランティア3名の方に演奏指導に来ていただいている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動 (特徴的な活動)

- ・各パートの練習 (毎週金曜日6校時) ・東中学校吹奏楽部との連携
- ・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
- ・市民運動会、城まつりパレードなどの地域行事への参加

■ 実施に当たっての工夫

- ・指導者確保のため、ボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に社会人講師をお願いするようにした。また、地域学校協働本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集をお願いしたところ、2名の方がトロンボーンや打楽器の指導をしていただけることになり、指導体制が充実した。
- ・12月上旬から1月下旬にかけて、6年生から5年生への引き継ぎ期間を設定している。ボランティアの方の指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏 (演技) 技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心も大切にしている。
- ・毎年5月下旬頃 (中体連の期間中) に東中学校吹奏楽部の演奏による音楽鑑賞会を開催している。後半には、吹奏楽部員にマーチングバンドのパート別指導をお願いしている。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。
- ・指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が著しく向上した。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- ・地域学校協働本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

■ その他

マーチング活動に関する児童の感想

練習が苦しい時もあったけれど、いろいろな思い出をつくることで感謝の気持ちでいっぱいです。指導ボランティアの先生に、バジングや音の出し方、曲の演奏の仕方などをたくさん教えていただいたからだと思います。城まつりパレードで自信をもって演奏することができました。

1年間熱心にご指導いただいた指導ボランティアの先生や城東小学校の先生、家族、地域のみなさんなど、たくさんの方に支えられているマーチング活動。運動会や城まつりパレードでは、地域の人に応援していただいたり、たくさんの温かい拍手をいただいたりしてうれしかったです。しっかり5年生に引き継いでいきたいです。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想 (ビジョン) や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。



【城まつりパレードへの参加】

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
東中学校区地域学校協働本部 佐和山小学校	ボランティア登録数	160 人
関係する学校 佐和山小学校・城東小学校・旭森小学校・東中学校	開 始 年 度	平成 20 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保・見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

本校教育の推進にあたっては、多くのボランティアの方の協力を得ている。そのほとんどが地域の方である。主な内容としては、地域学習の安全見守り・夏季休業中の算数の学力補充教室・読み聞かせと図書館整備・サツマイモの苗植え指導・家庭科実習支援、学校行事支援・ふれあいルームの日(お年寄りと遊ぶ日)、登下校の安全見守り指導等がある。こういった地域の方の温かい支えに応えるべく、本校では、本校教育の公開とともに地域の方との呼応のある教育活動・地域人材の持ち味を生かした教育活動の展開を推進している。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 英語の短時間学習

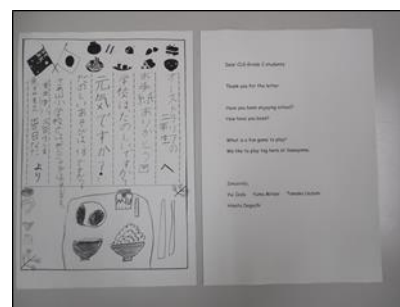
本校は、文部科学省より教育課程特例校(英語教育)の指定を、滋賀県より小中高英語教育推進事業及び小学校英語パイオニアプロジェクトの研究指定を受けている。英語教育加配やALTの配置もあり第3学年以上の英語の学習の充実を図っている。しかしながら、低学年から慣れ親しむことが大切と考え、全校一斉短時間学習を設定した。しかし、低学年からの慣れ親しみが必要不可欠と考え、クラウドア中川さんの協力を得て、低学年の朝学習時に15分間の英語活動を展開している。各学級、年間6〜7回程度ではあるが、子ども達は、英語だけではなく、クラウドア中川さんの人柄や母国の文化に触れたり、クラウドア中川さんとの語らいを楽しんだりしている。



【1年 英語の短時間学習の様子】

(2) 英訳

本校は、オーストラリアのColonel Light Gardens Primary Schoolと姉妹校提携を結んでいる。子ども達は年間何回かの手紙等の交流を楽しんでいる。子ども達を書いた簡単な手紙の英訳を、吉田さんをお願いしている。子ども達の目の前でボランティア活動をしていただいているわけではないため、子ども達には吉田さんの存在を紹介している。遠く離れたオーストラリアの姉妹校との橋渡しをしていただいている人の存在を、子ども達に意識させている。



【姉妹校への手紙】

■ 実施に当たっての工夫

○英語の短時間学習や英訳については、校内研究とのかかわりもあり、英語教育加配を担当にして、窓口の一本化を図っている。

○英訳ボランティアについては、英訳をお願いするときやしていただいたとき、子ども達の手紙を必ず添えるようにしている。

■ 事業の成果

○低学年にも英語の短時間学習を設定できたことは、英語教育の素地づくりとして成果があると考え。

○クラウドア中川さんの人柄に触れたり、語らいを楽しんだりすることは、本校の子ども達のグローバル資質をはぐくむ上でも、成果といえる。

○英訳については、姉妹校との交流の活性化だけではなく、少し離れた人に支えられている自分を自覚したり、顔の見えない人へ感謝の念を抱いたり、生き方についての学びにもつながるものと考え。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○英語の短時間学習の実施については、学校行事や児童会行事等で変更になることも多々あり、計画通りにいかないことがある。再度の日程調整も難しく、結果的にご迷惑をおかけすることが多い。

○窓口を一本化することで便利なこともあるが、任せきりになる傾向もあり、担任の意識強化が必要である。

○英訳については、なかなか人材が見つからなかった。今回は、多くの人に探していただき、吉田さんにお会いできたのである。地域へのアンテナを高くして、常に人材情報を収集することが大切である。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

() 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
東中学校区地域学校協働本部 旭森小学校	ボランティア登録数	38 人
関係する学校 旭森小学校・城東小学校・佐和山小学校・東中学校	開 始 年 度	平成 20 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

○子どもたちの教育活動に地域の教育力を活かす

本校では、低学年の生活科、中高学年の総合的な学習の時間の学習に、ゲストティーチャーや学習支援者として多くの地域の方々の協力を得ている。また、全校に関わる読書活動や本校の伝統的な活動であるマーチングバンドの楽器指導にも、多くの支援をいただいている。夏季休業中学力補充教室には、地域におられる教員〇Bのみなさんの力を借り、学習支援を実施している。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

○図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動していただいている。毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施し、それぞれの学年相応の本や、季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、休み時間を利用して「お話し会」を計画し、低中高学年別に本の読み聞かせをしていただいているのも、子どもたちが本に親しむいい機会となっている。

また、図書室の環境整備にもご協力をいただいている。火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。

○家庭科の「ミシン」学習支援

毎年地域の方にお手伝いいただいているのが、家庭科でのミシンの学習支援である。指導する教師は一人であることがほとんどのため、子どもたちへの細かな指導にはなかなか手が回らないのが現実である。子どもにとっては糸が絡まってしまった場合の直し方やその後の糸の付け方など、すぐそばで実際にやって見せてもらえることが何よりもわかりやすい。家庭科でミシンを使う場合は、事前に連絡を取り、家庭科の学習時間に合わせて来校いただいている。

○マーチングバンドの演奏指導ボランティア

本校では5・6年生でマーチングバンドを実施している。伝統的な活動であり、子どもたちもこれまで先輩から順に託され、旭森のマーチングバンドを受け継いできている。全教員が指導に当たっているが、楽器演奏という専門的な領域の指導であるため、教員だけでは難しい部分もあり、地域に居住されているボランティアの方に楽器指導のご協力をいただいている。

○ゲストティーチャーとしての協力

各学年で実施する様々なESD教育の一つである地域学習に、ゲストティーチャーとして地域の方々にご協力をいただいている。1年生では、生活科「むかしからのあそび」に地域のお年寄りに来校していただき、昔からの遊びを覚えてもらい、いっしょに遊ぶ楽しい時間を作っている。また3年生や6年生では、地域の歴史や文化など様々な疑問に答える講師としてご協力をいただいている。

■ 実施に当たっての工夫

○4月職員会議等の場に、地域コーディネーターと地域学校協働本部事務局の方に来ていただき、事業内容について説明をしていただいた。どんな協力ができるのか、また人材を探す場合の窓口はどこであるかなど、各教員が本事業を知ることができた。

○ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教師と打合せをして実施している。

■ 事業の成果

○図書館教育部が、一人年間50冊を目標にした読書推進の取組を始めて4年目になるが、図書室が本に親しみやすい環境になっているおかげで、達成する児童が増えている。

○本事業の内容を教員が理解することで、必要とする人材の確保のため、どこに相談したらよいかなど、基本的な情報を共有することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がる一方だが、協力いただける方がなかなか増えていかないのが現状である。学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信していき、継続して協力を呼びかけたい。

・図書ボランティアについては、地域のみなさんを中心に運営が進められるように、地域人材の募集を続けていきたい。

・学生チューターの協力を得るため、大学との連携を模索していきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。



【ふれあいお話し会】

教職員とのコミュニケーションを図り、生徒・学校・地域の関係が見える活動

(西中学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	4 人
活動名		
西中学校区支援地域協議会 西中学校	ボランティア登録数	30 人
関係する学校 彦根市立西中学校・城西小学校・城北小学校・城北幼稚園	開 始 年 度	平成 21 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保・見守り ■部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

児童・生徒が学校に居る時や登・下校時に、重大な自然災害や事件・事故などが発生し、学校や保護者だけでは対応できないと校長が判断した時は、当該校長は自治連合会傘下の組織・スクールガード・地域コーディネーター・PTA 等の組織に支援を要請し、地域と連携して対応に当たることを目的に、以下の「危機対応マニュアル」の作成に取り組んだ。

これは学校の危機管理をはじめ、学校と地域の危機への対応やその連携および地域の防災組織に至るまで、様々な課題が含まれている。今年度はマニュアル作成に終始したが、今後の取り組みが期待されている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動

上記のような重大な災害・事故・事件は、その規模によって学校の職員だけでは対応しきれないケースも考えておかねばならない。そんな時こそ、地域のあらゆる組織に支援を要請していくことを検討した。この取組こそ、地域と学校の連携・協働の活動である。そこで、自治連合会長やその傘下の組織長などに事前に趣旨を伝え、協力の依頼をさせていただいた。

これらは単に学校からの要請による学校支援のみでなく、学校が地域防災の拠点としての「避難場所」となっていることから、今後も地域の防災における連携・協働の課題も問われることとなる。

■ 実施に当たっての工夫

- (1) 西中学区として小・中学校の連携や学校と地域の協働した活動として取り組めるよう、さらに「危機対応マニュアル」の作成後も、その協働を意識した取組になることを目指して協議できた。
- (2) コンビニ強盗事件が相次いで2件も発生した時の対応に、学校や地域の連携が必ずしも十分でなかったことを受け、こうした緊急時の対応が学校だけで可能なのか等の検討すらされてこなかった中、この機会に学校と地域の連携・協働ができたことは大きな進展であった。

■ 事業の成果

- (1) 当マニュアル作りが学校と地域の協働の活動として立ち上げることができたことは大きな成果だった。今後毎年、学校と地域、さらに地域組織が具体的にどのように活動していくかが問われている。
- (2) 地域全体の危機対応に関わって、学校・地域がそれぞれの立場で協議でき、当マニュアルを作成する契機となった。
- (3) 西中学校には小学校のようなスクールガードの組織がないので、緊急時のスクールガードの募集をしたところ、十数人の賛同者があり、メール配信の手続きもでき、組織もたちあげることができたことは、今後の対応に明るい展望ができた。

■ 事業実施上の課題と連携・協働活動実施に向けて

- (1) 今年度は当対応マニュアルの作成が中心であったが、今後毎年、学校も地域もそれぞれの組織のメンバーも替わっていくので、当マニュアルを随時地域に発信し、要請・依頼していく中で、地域の防災を含めた協働の体制を確認し、具体的な活動を検討していかなければならない。
- (2) 当マニュアル作りは、ただ単に学校が地域に支援を要請するにとどまらず、防災について学校も地域に関わり「避難場所」としての対応や、「中学生の地域での防災の役割」にまで踏み込んだものになれば、まさにそれは「協働」たる取組といえるので、今後の取組に学校も地域も重点的に取り組まねばならない。特に以下のことについて検討していくことも話し合いの中でだされていた。
 - * 中学校の避難訓練時に地域からお越しいただき、評価や指導もいただければ、生徒の地域への防災意識の高揚にもなるのではないか。さらに避難場所での中学生の役割等についても検討する価値があるのではなかろうか。
 - * 中学生が地域の防災訓練などに地域貢献として参加してはどうか。必ず中学生の役割があるのではなかろうか。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人
活動名		
西中学校地域学校協働本部 城西小学校	ボランティア登録数	60 人
関係する学校 城西小学校、城北小学校・西中学校・城北幼稚園	開 始 年 度	平成 21 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

地域とのつながりを大切にし、「子どもたちの学びを豊かにする学習支援」、「豊かな情操を育む読書支援」、「安全な登下校のための見守り活動」を柱に地域コーディネーターと連携して活動に取り組んだ。また、地域を学習の場にしたり、地域の方々に学習に関わっていただいたりすることで、子どもたちと地域(人、物)のつながりを深めるとともに、子どもたちが地域に出向き、学習成果を発揮することで地域と協働した活動となるよう努めた。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 世代間交流の充実

1、2年生を中心に、地域の高齢者が会員の「子どもと楽しもう会」との交流に取り組んだ。1年生には交通安全の意識を高めるための「キューピー人形」を渡していただき、1、2年生合同の「七夕集会」では、ゲストティーチャーとして伝統的な行事と伝承遊びについて、指導や講話いただいた。



【「七夕集会」】

(2) 郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

・ 3年生

昔ながらの町並みを再現した「夢京橋キャッスルロード商店街」を題材に、その歴史やよさを調べたり、商店街連盟の方から関わる人々の思いを聞いたりして、落ち葉拾いや清掃など子どもたち自身ができることを見つけ実践した。

・ 4年生

「彦根城」を題材に、彦根城の特徴を調べ、ボランティアガイドのみなさんからよりよいガイドの仕方についてアドバイスを聞き、実際に観光客をガイドしたり、城下町である校区のよさを追究したりする学習に取り組んだ。

・ 5年生

地域の環境を題材に、琵琶湖の環境や城山の植物調べ、芹川の水質調べなどに取り組んだ。城山の植物調べでは、市生活環境課職員をゲストティーチャーに学びを深め、学習した城山の植物をカードにまとめ、観光客に配付した。

・ 6年生

地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めた。また、狂言体験では、学習成果を館内の能舞台にて、保護者や地域の方に発表した。

■ 実施に当たっての工夫

これまでの連携先や地域コーディネーターに紹介していただいたゲストティーチャーに継続的に協力いただけるように、学校側の担当者が積極的に学校の情報を提供したり、打ち合わせ時期を調整したりした。

■ 事業の成果

地域の方に関わっていただくことが充実し、継続いただけるようになってきた。特に、地域について専門的な知識や地域への愛情や誇りに思う気持ちを育むには、地域の方の生の声を聞くことが効果的である。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

中学校ブロック内の地域コーディネーターや学校と地域を結ぶコーディネート担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換する。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

() 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

縦割り班で地域から学び、郷土への愛着心を育てる『ふるさと探訪オリエンテーリング』（城北小学校）

■ 彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人
活動名		
西中学校区地域学校協働本部 城北小学校	ボランティア登録数	29 人
関係する学校 城北小学校・西中学校・城西小学校・城北幼稚園	開 始 年 度	平成 21 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

8：50～9：00 出発式

9：00～ ウォークラリー（各班並んで3分ごとに出発）

（水主の水軍跡→松原回転橋→彦根港→お浜御殿→琵琶湖岸）

12：00～終わりの式

児童会の縦割りグループ毎に、地図を参考にして訪ね、6年児童や地域・施設の方から説明を受けて学習する。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

今年度は松原のお浜御殿や水主水軍跡などを縦割り班ごとにウォークラリーをしながら巡り歩き、総合的な学習の時間で学んできたことをもとに、6年生が下級生に説明する。全校を24グループに分け、それぞれのグループにボランティアがついて活動を共にする。

6年生は、事前に歴史ボランティアさんのお話を聞きながら、グループ毎に課題をもって調べ、下級生に対してどのように伝えるかを考え、準備を進めた。

当日は、縦割り班のリーダーとしてだけでなく、歴史学習のガイドとしての役割を担っており、歴史ボランティアさんのアドバイスをもとに、各班が工夫した資料や説明で、班のメンバー（1年生～5年生）に説明を行った。



【 説明をする6年生 】

■ 実施に当たっての工夫

事前に職員で下見を行い、危険箇所の点検やチェックポイントの確認を行った。その内容を、地域学校協働本部のリーダーに伝えた。当日は、地域学校協働本部のリーダーから、児童の活動内容と注意事項をスタート前に説明していただき、教師とボランティアと連携して安全確保ができるようにした。

■ 事業の成果

20名以上の方々が参加していただき、子どもたちの安全への目配りが大変よくできた。ポイント毎での児童の説明にボランティアの方も領いたりメモをとったり、子どもに寄り添っていただいた。また、休憩場所では子どもと会話したり一緒に景色を眺めたりする中で自然と交流する姿が見られた。

学校から、見学場所までの安全配慮が十分行えた。ボランティアさんの人数がしっかり確保できているため、子どもたちへの目配りや気配りが十分に行き届き、活動そのものがスムーズにいく大きな要因となった。



【 参加者一同による出発式 】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

グループ数も多く、時間差をつけて活動を行うため、活動時間や待ち時間等に大きな幅が生じてしまう。ガイド場所での班の回転がゆっくりしていたために、さらに時間の幅ができてしまった。職員の中にも時間の意識が足りなかった部分もあるが、ガイドポイントを絞り、終わりの時間をはっきりさせることで、次の活動にスムーズに移行できるような配慮が必要であった。

■ その他

子どもたちは、話を聴く姿勢や、ルールを守ることなど、よく頑張っていた。6年生は事前の学習で、国語科の学習と関連付けながら、よりよいプレゼンテーションの仕方について探究する機会となり、学級会や委員会活動など、他の活動においても学んだことを生かすことができる活動であると考えている。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

学校と地域を結ぶSCHOOL SUPPORT		(中央中学校)
彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	3 人
活動名		
彦根中央中学校区支援地域協議会 中央中学校	ボランティア登録数	約 7 人
関係する学校 中央中学校・ 金城小学校・平田小学校・金城幼稚園・平田こども園	開 始 年 度	平成 22 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本都内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保・見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 郷土学習 ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

本事業は今年度8年目を迎え、地域の多彩な人材を学校教育に活用することで、児童・生徒の学力向上や体験的な学習で成果をあげてきている。また環境整備作業等を行い教育環境の充実を目指している。幼小中連携で取り組んでおり、地域コーディネーターと各校の担当者会を年3回設定し、各校地域の実態把握、事業計画、予算配分、事業連携などを話し合い、進捗状態や予算の執行状態、問題点などを話し合っている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

- (1) 今年度から特別支援学級の授業で、校地内での野菜作りを行っており、一度途絶えた地元の「大藪かぶら」の再興にも取り組みながら、様々な野菜作りの補助を行っていただいている。
- (2) 校内の環境整備事業として、①ゴーヤカーテンの設置と撤去
②使用していない旧花壇枠の撤去 ③校地内の除草作業
④校舎内の掲示板の作成 に取り組んでいただいた。
- (3) 部活動支援として、今年度も美術部の作品用額縁の制作と修繕を行っていただいた。
- (4) 「中央中博覧会」として、授業や部活動で作成した作品を、地域の公民館に1週間展示し、保護者や地域の方に見ていただいている。また小学6年生の書写作品も合わせて展示することで連携を図っており、その設営や当番、後片付けで支援していただいている。



【ゴーヤカーテン設置の様子】



【中央中博覧会の様子】

■ 学習支援(地域未来塾)の活動内容 詳細は地域未来塾事業で掲載

■ 実施に当たっての工夫

- 生徒が夏祭りや文化祭などの地域活動へボランティア参加することにより、連携を積極的に行い、地域とのつながりを深めようとしている。
- 幼・小・中との連携の中で、美術部などの生徒活動を活用した取組を模索した。

■ 事業の成果

- 毎年行っている活動については、支援の方々も要領をよく理解していただけており、手際の良いスムーズな活動ができるようになってきている。その中でも、3年ほど実施しているゴーヤカーテンは、毎回前年度の反省をうけて改良され、毎年よく育つようになってきている。
- コーディネーターの他にも、総合的な学習の時間の茶道体験、美術科の作陶体験、家庭科の浴衣着付け体験、調理実習、社会科の租税教室、保健体育科の性教育講座、朝読書の読み聞かせなどを実施し、地域の人材を授業の中で活用している。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、放課後学習や図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。
- 本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事、生徒活動への計画的な導入を図っていく。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

彦根市 平田小学校	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
中央中学校区支援地域協議会 平田小学校	ボランティア登録数	37 人
関係する学校 平田小学校・金城小学校・中央中学校 平田子ども園・金城幼稚園	開 始 年 度	平成23年度
<p>活動内容 ※実施した活動内容全てに■印</p> <p>□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）</p> <p>□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保・見守り □部活動支援</p> <p>■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）</p> <p>■郷土学習 □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □その他 []</p>		

■ 活動の概要

本事業も7年目を迎え、今年度の活動について5月の総会時に話し合い、活動内容を決めてきた。毎週水曜日の朝の読み聞かせ、環境整備活動、社会科や総合的な学習の時間での地域学習の講師や引率、全校遠足の引率等、地域人材の活用が定着している。コーディネーターをはじめ、ボランティアの皆さんが、学校のことを熱心に考えて活動してくださっている状況である。子どもたちは、地域のボランティアさんとの声かけや見守りを素直に受けとめ、安心感とともに感謝の気持ちをもって活動ができている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動内容）

①朝の読み聞かせ

今年度2名の方に新たに読み聞かせボランティアに登録いただき、合計8名で活動していただいている。本校は11学級あるため、読書活動支援員、教員2名が水曜日の読書の時間にボランティアさんと一緒に読み聞かせを行っている。毎週、いろいろなお話を聞くことができ、子どもたちは興味深く聞いている。

②全校遠足の引率

11月2日(木)にふれあい遠足を実施した。たてわり班の各班に1～2名ずつボランティアさんについていただくとともに、ペア学年で並んで彦根城まで歩く交差点には、立哨していただいている。今年度も17名の方にご協力いただき、安全に彦根城まで往復することができた。

③ににに農園・教材園

本校には何力所か畑があり、学年で使用する畑を決め教材園として運営している。昨年度から空いた畑を「にこにこ農園」として利用し、ボランティアさんと一緒に作物を育て、野菜作りを教えてもらう場、一緒に畑仕事をする場として活用してきた。今年度は、3年生の担任より、「大豆を育てて、国語科や社会科との学習とつなげたい」という提案から、苗作りから始めて大豆の栽培に取り組んだ。事前に畑の除草作業をしていたり、1面しか畝作りができなかった畑を2面に増やしていただいたりした。好意で大豆の苗を持ってきていただいたボランティアさんもあった。活動日には除草や周りの畑の整備をしていただき、10月11日に大豆の収穫を行った。収穫した大豆は、きなこにする計画である。



【大豆の収穫】

■ 実施に当たっての工夫

今年度は、学校支援のボランティア募集の案内を学校だよりの他に地域の回覧でも行った。募集を出した時点での新たな登録者はなかったが、「ボランティア募集のちらしを見たから」と1学期の終わりに登録者が増えた。案内を見た方からの登録の連絡を待つのは難しいが、あらかじめ出しておくことで、地域の懇親会等で話題になったことがきっかけで、学校支援に来ていただけるようになった。今年度も毎月第2水曜日を活動日として位置づけた。

■ 事業の成果

月1回の活動日には、8名ほどのボランティアさんが参加してくださっている。今年度は、2時間の活動時間を2時間半に伸ばしていただき、学校環境が少しでも良くなるように仕事を見つけて環境整備に努めてくださっている。子どもたちの中にも、自分たちのために来てくださっているということが分かってきて、自然と挨拶を交わす子も増えてきている。

「ここにこ農園」の大豆の栽培の他に、2年生では、野菜の栽培活動と一緒にしていただいた。野菜の苗を植えることから、草取りや、収穫と一緒にすることで、ボランティアさんたちとふれあうよい機会となった。収穫した野菜を何度も子どもたちが家庭へ持ち帰ることができ、学校支援ボランティアとの活動を保護者に知ってもらう機会にもなった。さらに、子どもたちは、ボランティアさんへあてて野菜作りの感想を入れた手紙を書くことで、生活科の学習のまとめとして取り組むことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

今年度も登録を辞退される方があり、ボランティアさんの人数確保が課題である。学校支援の活動が、ボランティアさんにとってのやりがいにつながるよう、支援していただける活動について意見交流し、次回に向けて活動の確認をする必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

学校と地域の「豊かなつながり」

(金城小学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1人
活動名		
中央中学校区支援地域協議会 金城小学校	ボランティア登録数	113人
関係する学校 金城小学校・平田小学校・中央中学校・平田こども園・金城幼稚園	開始年度	平成22年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保・見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 活動の概要

子どもと地域・学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの教育活動の充実と人権が守られ安全で安心な学校づくりをめざして本事業に取り組んでいる。

本事業が開始される以前より、金城学区では、「健やか金城の会」が結成され、子どもたちの健全育成や防犯見回りなどで、地域の方々に学校を支援していただいていた経緯がある。その活動を本事業につなげて、継続発展して、今日まで取り組んでいる。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 登下校の安全パトロールと挨拶

・金城見回り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、安全を見守ってくださっている。

(2) 体験活動支援

・特別支援学級の大藪かぶらの栽培、3年生の昔のあそびとくらし、5年生の米作り等の活動にゲストティーチャーを頼んでいる。田んぼの管理をしていただいた方は、おにぎりパーティーに招待している。

(3) 読み聞かせ・影絵

・朝読書の時に読み聞かせをしていただいたり、全校集会で影絵を行っていただいたりしている。

(4) 学習環境の整備

・校庭の樹木の剪定や除草作業を実施していただいている。

■ 実施に当たっての工夫

○毎月、第3月曜日に定例会を開催し、コーディネートと活動内容の計画と確認を行っている。

○ボランティアの方々へは、6年生の児童が暑中見舞いのはがきを出したり、PTA行事とタイアップして5、6年生児童が感謝の気持ちをメッセージカードで伝えたりしている。

○PTAから単P大会やもちつき大会などのPTA主催行事に、ボランティアを招待している。



【おにぎりパーティー】

■ 事業の成果

○生活しやすい学校環境の整備や授業の充実を図ることができた。

○子どもの様子を適宜伝えていただくことで、学校だけでは気づかない実態を掴むことができた。

○地域の様々な人々によって守り育てていることを、子どもが感じ取ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○本事業の取組が、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分周知されていないこと。

○子どもたちが、ボランティアの方々と共に活動したり気軽に話したり機会の充実

○ボランティアの高齢化に伴い、ボランティア活動を終える方が出てきたこと。ボランティアの世代がうまく進みそうにない実態があること。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1人
活動名		
彦根南サポートオフィス 南中学校	ボランティア登録数	7人
関係する学校 城南小学校・城陽小学校・亀山小学校・南中学校	開始年度	平成23年度
活動内容 ※実施した全ての活動内容に■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■その他[グリーンカーテン作り]		

■ 活動の概要

校区内の中学校と4小学校の各地域支援コーディネーターと担当の先生で定期的に会議を持ち、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。また地域への啓発とボランティアの人材確保を目的とした「ボランティア便り」を発行し、保護者への配布と地域回覧を行っている。

今年度より若葉小学校がコミュニティ・スクールとなり彦根南サポートオフィスから外れた形となっているが、同じ地域内での活動や目標は同じという視点から、会議にも参加いただき、その精力的な活動に各学校が刺激を受けている。「ボランティア便り」も引き続き合同で製作し配布を継続している。

南中学校においては学習支援(地域未来塾)と環境整備・グリーンカーテン作りを中心に活動している。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) グリーンカーテン作り

夏に涼やかさを作るグリーンカーテン作りに取り組んで3年目
今年度もボランティアの方と部活に参加していた1年生の手伝いで
校舎側面に大きく作り上げることができた。

(2) 環境整備

今年度はグラウンド周辺の側溝の土上げを中心に行った。



【 グリーンカーテン作り 】

■ 実施に当たっての工夫

- グリーンカーテン作りに関しては、植え込みやパイプ作りに生徒にも参加してもらい、ボランティアの方と共に作り上げるようにした。
- 「ボランティア便り」発行に関しては担当の先生と連絡を取り合い、活動の様子を直接取材するよう心掛けた。
- 今年度も中学校の先生に支援して欲しい事のアンケートをお願いした。このアンケートの結果、学習支援が必要とわかったので、ボランティアの確保を進めたい。

■ 事業の成果

- 小学校で活動取材をする中で、ボランティアの方とつながるチャンスができた。中学校へはなかなか地域の方に来ていただけないので、直接ボランティアのお願いをするなど、今後の人材確保のつながりを作ることができた。
- 環境整備については、中学生の地域貢献活動に合わせて行っているため親子での参加も多く、毎年の恒例行事として定着してきている。



【 環境整備 】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 各小学校では地域への事業の浸透が見られるようになってきたが、中学校としてはまだまだで、ボランティアの人材確保が一番難しい。地域との連携・協働を進めるためにも、協議会に地域の団体の方に参加いただくなど、相互理解を深めるためにも転換を図る時期にきていると感じる。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域とともに豊かな学びをめざして～学校と地域で作る子供の学び～

(城南小学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
彦根南サポートオフィス 城南小学校	ボランティア登録数	85 人
関係する学校 城南小学校・城陽小学校・亀山小学校・南中学校	開 始 年 度	平成 23 年度
活動内容 ※実施した全ての活動に■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保・見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

本校では、主に読書ボランティア、スクールガード(子ども見守り)、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

- (1) 読書ボランティア ・朝のさわやかタイムの読み語り ・図書室の本の整理・環境づくり
- (2) スクールガード活動 ・登下校時の通学路の見回り(安全指導) ・下校時の公園等の見回り(不審者対応)
- (3) 学習支援
 - ・特別支援学級 「絆を深めよう」「花を育てよう」「地域に方とふれ合おう」
 - ・1年 生活科 「つながりあおう園児と仲良く」「おじいちゃん、おばあちゃんとなかよく」
 - ・2年 生活科 「生き物とふれ合おう、育てよう」「町の人と仲よしになろう」
 - ・3年 社会科 「もっと知りたい!大好きな私の町」「地域の伝統文化を未来に伝えよう」
 - ・4年 社会科・総合的な学習の時間 「地域の住みよい町かんきょう」「やさしい町づくり」
 - ・5年 社会科・理科・総合的な学習の時間 「琵琶湖調査隊」「安全な町づくりプロジェクト」
 - ・6年 社会科・総合的な学習の時間 「南中学区の歴史を探ろう」「平和な世界をめざして」
 - ・全校 行事 創立記念集会「ふるさとのよさ再発見 城南学区の今と昔」

■ 実施に当たっての工夫

○教育活動への理解をもとに、持続的に協力してくれる中核となる地域の人々と円滑な関係づくりを行うことで、ネットワークをつくり、教育活動が単年で終わることのないように維持していくことを重視した。

■ 事業の成果

○読書ボランティア

朝のさわやかタイムでは、週2回、紙芝居や絵本など、発達段階に合わせた内容のものを選んで読んでいただいている。また、環境づくりとして、本の整理や掲示物の工夫など、子どもたちが少しでも本に親しめるように心がけられている。とりわけ掲示物は、季節に合わせた内容のものを作成いただき、子どもたちも毎回楽しみにしている。今年の生活アンケートからも、読書を好む子の数がさらに増えていることがわかった。



【地域の伝統文化・幌踊りを教わる】

○スクールガード活動

毎日登下校時に見守り活動をしていただいております、子どもたちは安心して学校生活を送ることができている。

○学習支援

学校と学校支援コーディネーターが連絡をとりあい、学習内容に合わせて支援者を探していただいたり進め方を相談したりして活動を進めている。地域の方にさつまいもや花の育て方を教わったり、地域の施設や遺跡、伝統行事について丁寧に教わったり、戦争時の地域や学校の様子を説明してもらったりと、地域の方とふれあい、地域への愛着の心を育む大切な活動になっている。体験的な活動が、子どもたちの実感を伴った学びにつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○彦根南サポートオフィスの活動は、学校にも地域にも定着しつつあり、学習の時期が近づく地域の方から声をかけていただくこともある。学習内容や活動は年間計画にも位置づけている。ただ、現在のコーディネーターの方に中心的な役割を果たしていただいているが、学校が頼りすぎている部分もあり、新しい内容や活動を取り入れるなどの活性化が図りにくい面がある。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～地域の力で学びを深める～ (城陽小学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
彦根南サポートオフィス 城陽小学校	ボランティア登録数	75 人
関係する学校 城陽小学校・南中学校・城南小学校・亀山小学校	開 始 年 度	平成 23 年度
活動内容 ※実施した全ての活動に■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保・見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方々や、専門的な技術をもった方々から、指導していただく機会を積極的に設け、地域の方とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色のひとつとして位置づけている。ゲストティーチャーとして子どもの学習に携わっていただいたり、地域学習の講師、図書ボランティア、水泳の指導、夏休みの算数教室、校外学習の引率補助などにもご協力いただいている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 2年生～6年生 夏休み算数科補充学習

毎年、夏休みに入った最初の3日間を算数科の補充学習教室として取り組んでいる。希望者として集まった児童を、各学年3～5人の小グループに分け、主に1学期の復習学習を行っている。そこで、担任だけでなく地域の方にお手伝いをいただいている。

今年度は、城陽学区にお住まいの教員OBの方3名と、県立大学の学生の方、のべ14名に来ていただき、小グループに入って採点やアドバイスを子どもたちに送っていただいた。子どもたちも近くにいる先生や、学生のお兄さんお姉さんに気軽に質問したり、採点の際に説明をしてもらうなど、一人ひとりの子に合わせたきめ細やかな指導ができ、学習成果を高めることができた。



【算数教室で県立大の学生と】

(2) 読み聞かせボランティアと図書環境ボランティア

本校では、毎年地域の方の中から読み聞かせボランティアをお願いしている。本年度も5名の方が毎週火曜日の朝学習の時間に読み聞かせに来てくださっている。子どもたちは、読み聞かせの時間になると静かに話に聞き入り落ち着いた時間となっている。また、図書環境ボランティアにも4名の方が活動してくださっている。毎週火曜日の午前中に図書室に集まり、本の整頓や季節に応じた図書室環境作りを行っておられる。季節の行事に合わせた飾り付けはとてもかわいらしく、図書室にいたいと思わせる雰囲気作りとなっている。



【読み聞かせに聞き入る子どもたち】

■ 実施に当たっての工夫

○効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打合せを行った。また、事後の学習の様子を知らせ、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

■ 事業の成果

○本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話しいただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度も学校を訪問していただくことで学校とのつながりをより深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

We Love かめやま		(亀山小学校)
彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
彦根南サポートオフィス 亀山小学校	ボランティア登録数	30 人
関係する学校 亀山小学校・城南小学校・城陽小学校・南中学校	開 始 年 度	平成 23 年度
活動内容 ※実施した活動内容全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

学校地域支援本部地域コーディネーターに、様々な地域学習や教育活動の支援に必要なボランティアを見つけ依頼していただいている。教員のニーズに応じた人材を見つけていただき、教育活動の充実につながっている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援をしていただいている。植え方を丁寧に指導いただいたおかげで、今年も豊作となった。また、学校花壇の花の育苗も手伝っていただいた。育った苗を近隣の施設や地域の独居老人に届ける活動は、本校の伝統となっている。配達は子ども達が行うが、配達先の多い町はその町のボランティアにお手伝いをお願いした。



【サツマイモ植え】

(2) 家庭科学習への支援

家庭科のミシン学習や調理実習に、ボランティアをお願いした。子ども一人一人への支援が充実し、満足のいく活動となっている。

(3) 学力向上への支援

夏休みに、全校児童対象に学力補充教室（算数・国語教室）を開催している。今年度は、地域の教員OB 7名に入ってもらい、個別指導に当たっていただいた。

(4) ふるさと学習への支援

3年の地域学習や2年の生活科などでも、地域のことをボランティアの方々から詳しくお話をお聞きし、ふるさとへの思いを深めることができている。年度末には、亀山っこ発表会を学校で開催し、お世話になったボランティアの方々を招き、1年間のふるさと学習の成果を披露している。



【造り酒屋さんにて】

■ 実施に当たっての工夫

○地域コーディネーターは、長年安全ボランティアとして尽力いただいた方をお願い

し、学校の事情や子どもの実態について理解していただいている。前コーディネーターの方との連携を密にとり、栽培活動時などはお二人で学校に出向いてくださっている。

○担当教職員とコーディネーターが打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについてコーディネーターと十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。

○毎週金曜日の放課後に定期的にコーディネーターに來校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしている。

○校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援を受けている様子を子どもや保護者、地域に発信している。

■ 事業の成果

○コーディネーターに学校のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。

○小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に学習を実施することができている。

○ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができている。

○支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターから声を掛け、助言をしてくださっている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。

○さまざまな活動場面でボランティアの支援がほしいところであるが、限られた補助金の中、多くの方に来ていただくことは難しいのが現状である。

○ボランティアとの事前打合せは担任を中心に行っているが、話の視点が少しずれたり、内容が難しかったりすることがある。指導してもらう内容についての綿密な打合せが必要である。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

(○) 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域と学校・生徒で創る地域活動・・・地域のお役に立てる彦中生！		(彦根中学校)
彦根市	地域コーディネーター数	4 人
活動名	(地域学校協働活動推進員)	
彦根中学校区地域学校協働本部 彦根中学校	ボランティア登録数	32 人
関係する学校 河瀬小学校・高宮小学校・彦根中学校	開 始 年 度	平成 23 年度
活動内容 ※実施した全ての活動に■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 郷土学習 ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

(1) 緑のカーテンプロジェクト 取組 4 年目になる。3 教室分と保健室の前でゴーヤを使った緑のカーテンに取り組む。

(2) 学校行事などに参加・協力

地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集。
・長距離遠足の交通指導など・合唱コンクールなど行事時の駐車場案内・校地内の環境整備（葉刈り、除草作業など）

(3) 地域貢献活動への参加協力

地域の一員として、地域活動に参加する中で感謝の心や豊かな心の育成を図る。

(4) ゲストティーチャーによる特別講義

・助産師による性教育（1 年）・職場体験前のマナー講座（2 年）・放課後の学習支援（3 年）・ひょうたん作り講習（特別支援学級）

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 緑のカーテンプロジェクト

取り組み 4 年目。なるべく多くの生徒にかかわらせ自分たちの緑のカーテンと意識づける努力をした。

5 月上旬：3 年生の学年集会で取り組み説明 近隣のビニールハウスで種まき・ポットに移植

中旬：支柱・ネット張り・プランターに移植・生徒会環境委員や部活動による水やり

10 月中旬：ゴーヤの撤去作業

(2) 地域貢献活動への参加

「地域のお役に立てる彦中生！」を目指して、地域貢献活動に積極的に参加できる生徒の育成に力を注いだ。

① 年度初めに自治会長さんに年間行事やボランティア活動で中学生が参加できるものを報告依頼する。

② 報告された活動を生徒に知らせ、ボランティアを募る。 ③ 参加希望の生徒は申込用紙を提出。学校で集約し依頼先に名簿を報告する。 ④ 参加生徒は、活動後に報告書を提出する。

⑤ 年度末に活動参加の多い生徒を表彰する。

■ 学習支援（地域未来塾）の活動内容

○詳細は地域未来塾事業で掲載

■ 実施に当たっての工夫

○学期に一回の担当者会議を行い、これまでの活動の振り返りと今後の予定について話し合いを持った。教職員と地域コーディネーターとの立場や思いを交流することにより、その後の活動に生かすことができた。また、小中学校でお互いの活動を参考にすることができた。

○自治会や青少年育成会議などの諸団体とも連携を取りながら、活動を進めることができた。

■ 事業の成果

○緑のカーテンプロジェクトについては 4 年目でもあり、地域や生徒の中で定着してきた。移植や水やり、撤去作業など委員会や部活動、ボランティアなど多くの生徒の参加が得られている。また、ゴーヤだけでなく、プランターの花なども地域のひとと生徒たちで一緒に移植をし、自分たちの学校を自分たちできれいにする意識が出てきている。

○学校行事である長距離遠足については、地域の理解もあり、交通指導・歩行など積極的に支援してくださる方々も多い。また、生徒たちも地域に守られていることを実感できている。

○生徒の地域行事への積極的な参加により地域の中学生への見方が変わり、中学生のがんばる姿を肯定的に見ていただけるようになった。一部の地域行事においては、中学生の協力が不可欠となっているものもあり、地域の一員として活動の場が広がっている。中学生自身も成就感や自己存在感を感じることにつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○まだまだ、担当者とコーディネーター中心の活動になっており、全職員の意識を高めることが課題である。

○今年度 3 名の地域の大学生を確保し「学習支援」を行っているが、なかなか地域の方で協力していただける人が見つからない。地理的な問題、時間的な問題があり、人の確保が難しい。

○本校の地域コーディネーターは、開始当初からで、高齢化が進んでいる。後任の人選など難しい状況である。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。



【 ゴーヤ支柱立てを終えて 】

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人
活動名		
彦根中学校区地域学校協働本部 河瀬小学校	ボランティア登録数	65 人
関係する学校 河瀬小学校・高宮小学校・彦根中学校	開 始 年 度	平成 23 年度
活動内容 ※実施した活動全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

数年来、子どもたちが、地域の先生から体験を通して学んだ学びを地域へ還元することで、よりよい地域・学校づくりを目指して、「地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～」を合言葉に地域学校協働事業を展開している。

本年度も、年間を通じて様々な活動を計画し、多くのボランティアさんに専門性を活かした活動や、学校職員だけでは、人的、時間的な制約でなかなか取り組めない活動の支援をしていただき、学校教育の助けになっている。



【 町探検でのお話 】

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 「町探検」

3年生では、社会科で町探検に出かけている。東西南北、それぞれの地域で地域の方にその良さや歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。

(2) 「米、花、野菜の栽培・収穫祭」「緑のカーテン」

1、2年生は花や野菜の栽培、4年生はゴーヤの栽培、5年生は米の栽培を行っている。それぞれの活動で地域の方に土や肥料のこと、植え方、育て方を指導していただいた。

さつまいもは、収穫後、収穫祭としてサツマイモのお菓子作りを行った。1年生は保護者の方を中心に調理の支援に来ていただいた。2年生は、保護者の方の他に地域で生活改善活動をされている方にも来ていただき、簡単に作れるサツマイモ料理を紹介していただいた。いっしょに調理をした後には、収穫したサツマイモを持ち帰り、家でも教えていただいたお菓子を作ることができた。

5年生の収穫した米は全校児童が給食で味わったり、家庭科でご飯を炊いたりするほかに、地域の方に米麴に加工していただき、地域の大豆を使って味噌を作る活動に使っている。作った味噌も家庭科や給食、家庭での調理に利用している。

■ 実施に当たっての工夫

○年に3回、中学校ブロックでコーディネーターの方との話し合いをもち、PDCAサイクルで活動を進めることができています。年度当初の話し合いでは、昨年度の実践を元に今年度の計画を話し合った。年度途中の話し合いでは、他校の実践を聞く機会があり、活動の参考となっている。

○年度当初には、学区全体にボランティアの募集の呼びかけをしている。本年度は新たに陸上運動の学習支援や戦争体験のお話を申し出てくださる方があった。また、グループとして、厚生保護女性会のみなさんが図書の整理や読み聞かせ、安全指導にきてくださった。呼びかけをしたことから、ボランティアとして登録して下さる方が広がっている。



【 サツマイモの調理 】

■ 事業の成果

○地域の方から、子どもたちとの交流や支援活動の後のあいさつがとてもいいとお話をいただいた。人と関わるとてもよい機会になっている。また、地域の方とのつながりが深まり、普段の生活の中でも温かな関わりができています。

○地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を自慢や誇りに思う気持ちが育っている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○PDCAサイクルを大切に、よりよい活動になるよう、双方向での意見の交流を大切にしていきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人
活動名		
彦根中学校区地域学校協働本部 高宮小学校	ボランティア登録数	80 人
関係する学校 高宮小学校・河瀬小学校・彦根中学校	開 始 年 度	平成 23 年度
活動内容 ※実施した全ての活動に■印		
□学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等)		
■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援		
■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)		
■郷土学習 ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □その他 []		

■ 活動の概要

高宮地域の伝統である「かぼちゃ踊り」の特徴や雰囲気を感じながら、学級や学年部で楽しく踊る。「かぼちゃ踊り」を通して、地域のよさに気づき、伝統を受け継いでいこうとする態度を育てることをねらいとしてこの活動に取り組んでいる。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動内容)

- ・地域の高宮かぼちゃ踊り保存会の方に来校していただき、かぼちゃ踊りの振り付けを教えていただいたり、実際のかぼちゃ踊りを見せていただいたりして、踊り方を学ぶ。
- ・週末や夏季休業中に地域で行われているかぼちゃ踊りの練習に子どもたちが自主的に参加し、保存会の方や地域の皆さんと一緒に楽しむ。
- ・教えていただいた踊りを運動会で保存会の皆さんとともに披露し、全校、保護者、地域への発表の場とする。
- ・地域の文化祭に進んで参加する子どもも多数おり、「かぼちゃ踊り」の発表の場をいただいている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・事前の打ち合わせの中で指導者の願いや「地域のよさを学ばせたい」という学習のねらいを明確にすることで、活動がいつそう充実したものになるように努力する。
- ・身内以外の地域の方とのふれあいを通して、自分たちが多くの人に支えられ、見守られ、大切にされているということに気づけるようにする。
- ・地域の方に子どもたちの生き生きとした活動の様子や喜びの感想を伝えることで、より積極的に伝統を受け継いでいくことができるようにする。

■ 事業の成果

- ・1. 2年生は、「次は、自分たちが踊るんだ。」という意欲をもって、3. 4年生の姿を見ている。自主的に夏季休業中の練習に参加する子もいる。
- ・3年生では、「いよいよ自分たちの出番。」という気持ちで練習に参加し、休み時間を使って、自分たちで歌を口ずさみながら練習する姿が見られた。家庭でも繰り返し練習している子が多くいた。
- ・4年生は、昨年の学びを生かし、自信をもって練習に取り組むことができた。3年生に教える姿も見られ、先輩として立派な態度で学習に臨むことができた。歌詞の意味も味わいながら踊り、手や足の動きも実にスムーズであった。
- ・高学年は、昨年(一昨年)のことを思い出ししながら、中学年の演技を懐かしそうにまなざしで見守っていた。自然に歌を口ずさんだり、その場で小さく振り付けをしたりする児童が多く見られた。地域の発表の場には、引き続き参加する子が見られる。
- ・子どもたちの間に十分浸透している「かぼちゃ踊り」である。緊張感を持った運動会の演技ではあるが、この「かぼちゃ踊り」のときだけは、演技をする子も見ると笑顔いっぱい、グラウンドは和やかな空気に包まれた。
- ・保護者や地域には「『かぼちゃ踊り』は、はじめて…。」という方も数多くおられるが、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿をほほえましいものと受け取り、とても喜んでくださっている。「家で何回も練習するので、わたしまでおぼえてしまいました。」「孫に『教えて!』と言われ、久しぶりに一緒に踊って、楽しい時間を過ごすことができました。」等の声も耳にしている。
- ・教師自身が「かぼちゃ踊り」を楽しむようになり地域の行事に積極的に参加している。流ちょうなふしまわしで音頭をとったり、エレガントな動きで踊ったりできる教員が増えている。

■ 事業実施上の課題

- ・子どもたちは、来校していただいたり、練習の場で「先生」として、かかわってくださったりしている方に対しては、感謝や尊敬の気持ちを十分に持ち、表出することができる。反面、学校以外の場や地域では、声をかけていただいてもあいさつや返事ができなかったり、注意してくださったことを素直に聞いたり反省したりできない子が見られる。自分たちは地域に見守られ支えられているという認識をいっそう育て、地域のどこにあって自然な態度で感謝や尊敬の気持ちを表せる子どもに育てたい。
- ・直接担当している学年だけでなく、全職員がこの取組の意義を理解し、自らコーディネートできる力を持つ必要がある。そのため、教師が自ら進んで地域に出かけ、地域のよさに触れ、それを教材化することが大切であると考えている。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- (○) 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。



【運動会 かぼちゃ踊り】

鳥居本学校サポートオフィスの取組		(鳥居本中学校)
彦根市	地域コーディネーター数	1 人
活動名	(地域学校協働活動推進員)	
鳥居本中学校区支援地域協議会 鳥居本中学校	ボランティア登録数	200 人
関係する学校 鳥居本小学校・鳥居本中学校	開 始 年 度	平成 22 年度
活動内容 ※実施した活動全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

地域学習や地域と連携した学習が効果的に組み込まれている。男鬼森林学習や地域行事への参加、地域の人材の活用などにより、学習を進めている。それらの活動を中心に、継続し、発展をめざして取り組んでいる。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験することで、森林の保全と有効な活用との調和について理解する。

☆1年…植樹 2年…伐採 3年…活用する

(2) 地域との連携

地域の行事に生徒が参加し、地域活性化の一翼を担っている。

☆宿場祭り …… 鳥中ソーランの披露、木材加工品の販売、さんあかグッズの販売

☆学区の運動会 …… 吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏 …… 中学生が役員として活動

☆学区の文化祭 …… 3年生卒業研究の発表、吹奏楽の演奏、3年生合唱の発表

(3) さんあかレンジャー

鳥居本中学校のキャラクターとして生徒より考案された、さんあかレンジャーが、宿場まつりで鳥居本中学校のアピールに歩いたり、あいさつ運動で小学校に行き活躍している。10月に、1年生より新メンバーを選出し、認証式を実施した。

■ 学習支援の活動内容

実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校していただき授業支援を行った。 ☆3年人権学習（部落問題学習）

☆総合的な学習の時間（3年卒業研究、1、2年マナー講座） ☆2・3年美術（2年鍾馗制作・3年作陶、茶道体験）

■ 実施に当たっての工夫

○鳥居本地区地域教育協議会を年3回持ち、1学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。2学期は中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。3学期は年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■ 事業の成果

○地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。さんあかレンジャーの活躍や地区運動会、宿場まつり、学区文化祭での活動に特に表れている。

○地域学校協働本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老社会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取り組みや、3学期には、1年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

○男鬼森林学習において、3年生がみざらづくりをし、地域の大工さんに支援してもらえた。また、地元男鬼の木材を加工して宿場まつりで販売できたことが、男鬼の木材の活用という点で成果としてあげられる。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

() 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。



【男鬼森林学習：植樹】



【宿場祭りでの鳥中ソーラン】

「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援

(鳥居本小学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
鳥居本中学校区支援地域協議会 鳥居本小学校	ボランティア登録数	100 人
関係する学校 鳥居本小学校・鳥居本中学校	開 始 年 度	平成 22 年度
活動内容 ※実施した活動全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) <input type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保・見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

本校では、教育活動を四つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜び」があり、地域の人・もの・自然を教材にした学習活動を行っている。

1・2年生の生活科のまち探検、自然や生き物との触れ合い、3年生社会科の地域探検、地場産業、3年生以上の総合的な学習の時間の活動、5年生のたんぼのこ体験事業、全校縦割り活動で行うウォークラリー、読書ボランティアによる読み聞かせ(通年)など様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 1年 生活科「生きもの探検」、6年 総合的な学習「男鬼の歴史・自然」(異学年交流活動)

5月に1・6年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行った。鳥居本学区青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮いただいている。多年度にわたり地域と連携・協働している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。今年度は異学年交流活動として、6年生が地域の方とともに、1年生の活動をサポートした。また、同時に6年生は地域の方から鳥居本の歴史についての話を聞いた。中山道を中心に歴史的建造物がたくさんあることを改めて知る児童も多く、地域に対する新たな見方ができるようになった。



【1, 6年異学年交流活動】

(2) 4年 総合 「矢倉川調査隊」

6月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん3名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、身近な川に対する見方を新たに知る児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をバックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かった。また、この活動は異学年交流活動として、中学3年生が小学4年生の活動をサポートする形で活動に参加した。



【4年矢倉川調査隊】

■ 実施に当たっての工夫

○活動の事前に担任が協力してくださる地域の方を訪ね、綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを担任から明確に伝えることが大切である。

■ 事業の成果

○地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分のすむ町への親しみや誇りを深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域の教材開発を行っていききたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。

■ その他

○鳥居本学園ブログ(<http://blog.goo.ne.jp/toriimoto2009>)をご覧ください。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

地域の人と一緒に栽培活動をして生きる力を学ぶ

(稲枝中学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	2 人
活動名		
稲枝中学校区支援地域協議会 稲枝中学校	ボランティア登録数	13 人
関係する学校 稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・稲枝ふたば保育園・ことぶき保育園	開 始 年 度	平成 20 年度
活動内容 ※実施した活動全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

稲枝中学校支援地域本部事業は、10 年目になり各校園の支援活動は充実深化定着してきている。「稲枝はひとつ」の考えのもと、連合自治会をはじめ各種団体が組織する「学校支援協議会」が中心となり地域を挙げて支援を行い、ボランティア活動を展開している。今年は、10 年目の節目ということで、「学校支援 10 周年記念講演会」を開催し、今までの振り返りと今後の活動に向けて、先進地(湖南市)から学校関係者、ボランティアのみなさん、地域コーディネーターが学ぶことができた。今年度は、稲枝中学校区全体で 118 名のボランティアの皆さんが登録され「読み聞かせ」をはじめ、登下校の安全、環境の整備、地域学習支援、野菜や花づくり、学習支援などに、学校や園の要望に沿いながら、さまざまな活動を展開している。支援事業を実施していくのに、年 2 回の協議会と 6 回の委員会を開催して活動の内容や運営の方法などを協議して運営にあたってきた。

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

これまで稲枝中学校区地域学校協働本部事業として、上記の 6 項目について、それぞれの校園で支援活動を行ってきた。これらの内、稲枝中学校では「読み聞かせ」をはじめ、登下校の安全、部活指導補助、学習支援を行ってきた。

(1) 特別支援学級への学習支援

稲枝中学校には 2 アールほどのスクール農園がある。昨年までは、部活動として園芸部が農園経営を行ってきたが、部活停止に伴い特別支援学級が経営を引き継いだ。それに伴いボランティア活動も部活補助から学習支援に変わり、活動時間も放課後から授業時間帯となった。生活単元学習の一つとして、野菜の栽培を通して日常生活に必要な知識や良好な人間関係を学ぶことを目的としているが、その学習がスムーズに進むように支援活動を行ってきた。支援には、稲枝中学校の地域コーディネーターが当たり、支援学級の担任の先生と日常的に打ち合わせを行い、畑の準備や種まき・苗植え・水やりの方法・収穫などの技術指導を週 1 回ほど行ってきた。



【小松菜、チンゲン菜、ほうれん草の種まき】

■ 実施に当たっての工夫

- 野菜の栽培では、どの作業も適期があり、学習計画を綿密に立てなければならぬ。また、天候にも左右されるので早めに先生と打ち合わせをした。
- 生徒にどんな野菜を栽培したいかを聞き、可能な限りを要望に沿うように栽培品目を決め、収穫の喜びが味わえるようにきめ細やかな世話をした。
- 収穫した野菜類を、近くの市役所支所やデイサービスセンターでスムーズに販売できるように事前にコーディネーターから依頼した。

■ 事業の成果

- 支援学級内だけの取組に終わらず、野菜を販売したり焼き芋にしたりカレーパーティーを行ったりして、先生方全体に取り組みの内容を知ってもらうことができた。また、近くの公共施設の方や会議の時に来られた地域の方に販売を通して交流することができた。
- 支援学級の生徒は 4 人いるが、どの生徒も野菜の栽培活動に楽しさや喜びを感じ栽培活動が好きになった。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

- 事業を継続するには、学習支援のボランティアさんが複数おられるとよいので、後継者を探す必要がある。
- 支援学級の先生が変わられることがあるので、毎年ボランティアと先生の打ち合わせが大切。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- () 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきました。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができました。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができました。

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

(稲枝東小学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
稲枝中学校区支援地域協議会 稲枝東小学校	ボランティア登録数	25 人
関係する学校 稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・稲枝ふたば保育園・ことぶき保育園	開 始 年 度	平成 20 年度
活動内容 ※実施した活動全てに■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

本校区にはJR稲枝駅があり、近年、駅周辺の開発が進み、新興住宅地が増えつつある。それでも校区全体を見わたせば、二世帯・三世帯家族があったり、スポーツ大会や祭りなどの地域行事があったりなど、家庭や地域住民とのかかわりが多い校区と言える。そのような校区であるが、地域と深く繋がっている子どもは、大人と比較するとそれほど多くない。習い事やスポーツ少年団などで休日を過ごす子どもが多く、地域行事にあまり参加できていないのが一因として考えられる。

そこで、本校では、地域の自然や歴史、そこに住む人々を題材にしながら、子どもと地域とのかかわりあいを深める教育活動を「地域の力」をお借りしながら推進している。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

本校では、毎年、5月はじめに学校支援ボランティアさんとの顔合わせ会を実施している。子どもたちは、一部のボランティアさんとの交流はあっても、何人の方にお世話になっているか、どんな種類のボランティアをしていただいているかは、詳しくわかっていない。そこで、ボランティアさんの活動内容や姿、人柄に触れるとともに、「一年間お世話になります」という挨拶や感謝の気持ちを届ける時間として、会を催している。

会を通して、子どもたちは、「こんなにもいろんなところでお世話になっているのだ」と多方面にわたる支えに気づいたり、「わたしたちのためにがんばってくださっている」と感じたりして、「自分も学校を大切にする一員としてがんばりたい」という愛校心を育てることに繋がっている。



【児童代表の言葉の様子】

■ 実施に当たっての工夫

日ごろからお世話になっているが、活動場面のみならず登下校時の見守りなど他の面においても支援や配慮をいただける。ボランティアの方が一年を通して継続的に関わってくださるので、子どもたちのちょっとした変化や人間関係にまで留意いただくケースもある。日々、コミュニケーションをはかり、学校との間の風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく上で大切であるとする。

■ 事業の成果

○ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介して下さることもあり、学校支援への熱い思いがボランティアの方々の間で引き継がれている。

○従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄ってくださっている。

○年間を通して関わってくださる活動もあり、子どもたちの気になる言動については直ぐさま学校へ情報を伝えてくださるので、指導理解や指導においても役立っている。

■ 事業実施上の課題

栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

() 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして

(稲枝北小学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
稲枝中学校区支援地域協議会 稲枝北小学校	ボランティア登録数	45 人
関係する学校 稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・稲枝ふたば保育園・ことぶき保育園	開 始 年 度	20 年度
活動内容 ※実施した全ての活動に■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

本校は、年々児童数が減少の傾向にあり、地域でも、少子高齢化が進み、地域の活性化という点が課題となっているが、この地域には、古くからの歴史ある文化や伝統が残っており、それらを何とか後世に伝えたいと考えておられる方がたくさんおられる。そこで、1年生から6年生まで生活科、総合的な学習の時間、社会科など様々な学習で地域の方に来ていただき、学習を進めている。また、「稲村かるたオリエンテーリング」を始め、運動会やマラソン大会等でも、多くの地域の方に協力していただいている。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

①お話タイム(隔週木曜朝8:15~8:30 各教室で読み聞かせ)

・お話ボランティア8名の方に来ていただいております。各学期末には、ボランティアの交流会をもち、本の選び方などの交流している。

②環境整備活動

・ひょうたん栽培、米作り、農園づくり等の支援
・まちづくり協議会の方々による校内環境整備・・・池の清掃、運動場などの草刈り、プール清掃、植え込みの刈り込み、芝生の整備など

③各教科学習活動(ゲストティーチャー)

・焼きいも体験(1, 2年)・まちたんけん(2年)・米作り、昔の暮らし(3年)・曾根沼干拓について学ぶ(4年)・琵琶湖の昔と今、地域学習(6年)・書き初め、百人一首(5, 6年)など多くの学習で支援していただいている。

④登下校見守り(スクールガードボランティア)

・下学年、上学年の下校時にともに歩いてくださる。スクールガード講習会にも多数参加して下さり、子どもの安全を守る活動に多くの方が協力して下さる。

⑤「稲村かるたオリエンテーリング」(平成29年5月26日実施)

・今年で28回目の行事である。稲村かるたに詠まれている自然や文化財などを巡りながら、郷土のよさを知り、自然や文化を愛し、郷土を愛する心をはぐくむことをねらいとしている。今年は上岡部・下岡部・石寺方面を巡った。ポイントでお話をしてくださる方や、子どもたちと一緒に歩いてくださる方が総勢20名ほど来てくださった。

⑥ふれあいタイム

・地域のお年寄りを音楽会、給食に招き、児童の発表の成果を見ていただいたり、一緒に給食を食べたりする。5時間目には、各学年で昔の遊びを一緒にしたり、昔の稲枝の様子について話を聞いたりし、その後の稲村学習につなげた。

■ 実施に当たっての工夫

・毎年、ボランティアに来てくださった方を一覧に残し、必要なときすぐに連絡が取れるようにしたり、コーディネーターとも連絡を取り合うようにしたりしている。

・オリエンテーリングでは、次年度回るコースでお話していただく方に、前年度の夏休みに教師が研修として話を聞き、来年度に向けて学ぶとともに、ボランティアの方には、次年度のことをお願いしておく。

・ふれあい給食、招待給食などで感謝の気持ちを手紙で伝えたり、年賀状を送ったりして児童とのつながりをもつようにしている。

■ 事業の成果

・行事や集会などでボランティアさんの紹介をしたり、感謝の気持ちを伝えたりすることで、児童も顔を覚えて、地域で会ったときも挨拶したり地域の行事に参加したりするなど、つながりができてきている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・ボランティアの高齢化が進み、次の人にうまくバトンタッチできるときと、なかなか次の人が見つかりにくいときがある。

・お話ししていただきたい事柄が十分伝わってなかったり、進め方などの打ち合わせがうまくできていなかったりするときがあるので、事前の打ち合わせをしっかりとっていくようにしたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

(○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。

(○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。

(○) 地域と学校でどのような地域をつかっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。



【ふれあい給食】

「ALL はえみ」：地域とともに、学びの充実をめざして

(稲枝西小学校)

彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名		
稲枝中学校区支援地域協議会 稲枝西小学校	ボランティア登録数	37 人
関係する学校 稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・稲枝ふたば保育園・ことぶき保育園	開 始 年 度	平成 20 年度
活動内容 ※実施した全ての活動に■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾) ■地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 活動の概要

本校は、全校児童 106 名の小規模校である。子どもたちは、互いに顔見知りで仲がよいが、限られた中での人間関係には難しさもある。学校の周囲は田園が広がり、公共交通機関や公共施設・商店等は少なく、児童の経験・体験も限られてくる。そこで様々な人との出会いや体験、またそれを通して多様な生き方を感じ取ることにより、未来を担う人材育成を図りたいと考える。さらに、地域の方々とのふれあいを通して、ふるさと「はえみ」やそこに住む人々を愛する心を育てたいと願い、本活動に取り組んでいる。

■ 地域と学校が連携・協働した活動(特徴的な活動)

(1) 地域と共に花づくり

全校みんなで花の世話をし、校庭は四季折々の花でいっぱいである。種まき・苗植えなどは、フラワー委員会の子どもたちが、地域の皆さんと一緒に活動している。花の世話を通して、「がんばる心」「優しい心」「豊かな心」の育成を学校・地域が共に目指している。

大勢の地域の皆さんが来てくださる入学式・卒業式は、一人一鉢栽培のサクラソウで飾る。

また、運動会は夏休みには親子で育てた「一人1プランター」を並べて「花で囲まれた運動会」を行っている。



【花の種まき】

(2) クラブ活動

限られた教職員の中ではあるが、幅広く専門的な活動体験を目指し、4年前から地域の方にも指導に入っていたい。今年度も、ホッケークラブ、ダンスクラブ、茶道クラブの3つのクラブで継続実施できた。子どもたちは、日常の学習内容・指導者とは異なる中で、意欲的に生き生きと活動している。運動会と110周年記念式典・音楽会でその成果を発表し、地域の方に向けての発信もできた。



【ダンスクラブの発表】

■ 実施に当たっての工夫

○支援してくださるボランティアの方やゲストティーチャーに感謝の気持ちをもつことを大切にしたい。そこで、学年当初、対面式を設け、全校児童とボランティアさんの顔合わせをする。また、掲示板に顔写真を掲示すると共に活動内容の掲示をしている。

■ 事業の成果

○子どもたちから支援者に声をかけたり、支援者から子どもたちへ話しかけたり、相互の交流が見られる。そんな中で、子どもを通してのつながりだけでなく、地域住民と学校もつながる中で、新たな支援者が増えて、活動の幅が広がり、多様な活動が実施できた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○年度当初、年間指導計画を基に、支援して頂きたい活動について事前に伝える機会を設ける。見通しをもった支援を計画的に実施できるようにする。

○多くの方々にお世話になっているが、短く単発の交流が多い。じっくりふれあう機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝える場を持ちたい。ボランティアの方にも「やりがい」「楽しみ」のある活動となれらるとう。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域と学校が地域の子どもの実態や課題を共有し、環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- (○) 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想(ビジョン)や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

「子どもたちの笑顔のために」 チームわかバンクの大きな一歩		(若葉小学校)
彦根市	地域コーディネーター数 (地域学校協働活動推進員)	1 人
活動名 若葉小学校協働本部 若葉小学校 (コミュニティースクール チームわかバンク)	ボランティア登録数	60 人
関係する学校 若葉小学校	開 始 年 度	平成 28 年度
活動内容 ※実施した全ての活動に■印 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援 (本部内地域未来塾) <input checked="" type="checkbox"/> 地域未来塾以外の学習支援 (授業補助、学力補充、読み聞かせ等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア (読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成 (地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [収穫の喜び<畑の活動>]		

■ 活動の概要

平成 28 年度から市指定の「コミュニティ・スクール」の指定を受け、大きな一歩を踏み出している。

「チームわかバンク」の皆さんには、主に以下のような学校支援の活動をしていただいている。

- ① 子ども達が本の世界に浸ったり、本に興味をもったりできるような読み聞かせ活動や図書室の本の修理・整頓等環境整備。
- ② 収穫の喜びを味わったり、命の大切さを学んだりする「畑 (野菜の栽培) の活動」
- ③ 生活科 (昔の遊び・町探検)・社会科 (昔の暮らし、戦争体験)・家庭科 (裁縫・ミシン・調理の補助) 等の学習支援活動。
- ④ 登下校の安全見守り、学級の子どもの学習の見守り活動。

■ 地域と学校が連携・協働した活動 (特徴的な活動)



【 収穫感謝祭 カレーだ! 】

(1) 収穫した野菜を中心にした「収穫感謝祭」

1 学期に世話をし収穫した夏野菜を中心にした「収穫感謝祭」を夏休みの 8 月 3 日 (木) の午前中に行った。教師とわかバンクの皆さんでアイディアを出し合い活動内容を決定した。若葉小学校の中庭を使い、野菜クイズ・若葉の森のキャラクター決定等で遊び、夏野菜カレーをみんなで食した。カレーは学校の教職員とわかバンクの皆さんで吟味して安全面に配慮して作った。食後には畑で収穫した「マクワやトマト、スイカ」を食べた。

中庭で楽しく遊ぶ子ども達を笑顔で指導する教師がいて、その周りに楽しむ保護者さんがおられ、それを見守る地域の皆さんという、若葉小学校が目指している「ふるさと感のある学校」を実現することができた。

(2) 学習の入り口、出口に「わかバンクの皆さん」⇒2 年生の生活科「町探検」

2 年生では、生活科の学習で「町探検」に出かけ、見つけてきたことを詳しく文章に書いて発表するという活動がある。町探検に出かけるとき、班ごとに分かれて見学活動に行くので、多くのわかバンクの皆さんに協力いただいた。各班に 3、4 人ずつ付き添っていただき、安全面に配慮していただいた。見つけてきた内容を国語科の「こんなもの見つけたよ」の学習で文章にまとめ発表会を行った。その発信の相手と一緒に歩いてくださった「わかバンクの皆さん」とした。一緒に歩いて見つけたことなので、わかバンクの皆さんも興味深く聞いてくださり、子ども達も意気揚々と楽しんで発表することができた。



【 見つけたよ発表会 】

■ 実施に当たっての工夫

コミュニティースクール 2 年目で、組織が安定してきて、みんなで楽しく話し合いが進んだ。学校ですること、地域の皆さんにさせていただくことを分担し、互いが協力しあって進めることができた。夏野菜カレーの試食会を行い、量や導線等の段取りを事前に考えたり、クイズやゲーム等を工夫したりと初めての活動を成功させるように努力できた。

事後に振り返りの反省会ももち、無理のないいつまでも続く活動にしたいという思いを共有することができた。

■ 事業の成果

- 「子ども達の笑顔のために」という思いで学校へ協力くださる地域の方が増え、また組織も安定してきた。
- 「学習支援」「読書活動」「環境支援」「見守り隊」の 4 つの責任者の方がしっかり考え、進めてくださるので、どの活動も価値ある成果を感じることができた。
- 子ども達の登下校の安全だけでなく、授業を進める上での安全面にも協力いただいた。学校を支える大きな力となった。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○学校支援のメンバーで一定の方に大きな負担がかかっている。誰でもできる活動ではないので責任を感じてくださる方に偏りがでないようにもう一度話し合いを深めていきたい。年配の方も多く、活動を継続していくには問題である。在籍児童の保護者の積極的な参加が少なく、何か事を進めるにあたっては協力体制が薄いので、今後保護者層にも啓発していきたい。

■ 「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

- (○) 人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実してきた。
- (○) 地域の子どもの実態や課題を共有し環境整備活動や見守り活動、授業などに生かすことができた。
- () 地域と学校でどのような地域をつくっていくのか、どのような子どもを育てていくのかという将来構想 (ビジョン) や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

外国にルーツをもつ生徒の学習支援

(東中学校)

彦根市	
活動名 外国籍生徒支援学習教室 (外国にルーツを持つ生徒の学習支援)	
年間開催日数	140 日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1 人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 3 人 教育活動推進員 0 人 教育活動推進員 0 人 計 3 人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの 平均参加人数	1.5 人

■ 活動の概要と目的

言葉や文化の違う日本で学校生活を送っている外国にルーツを持つ生徒の学習を支援する。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 中国にルーツをもつ生徒の支援には、中国語のできる元教員のボランティアが学習支援。
- (2) フィリピン、タイ等にルーツをもつ生徒の支援は、元教員のボランティアが日本語で学習支援。

■ 対象とする生徒

外国にルーツをもち、学習支援が必要な生徒

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○個別に声をかけ、本人に希望を聞き、保護者の承認を得て実施。

■ 事業の成果

- 言葉の壁などで、一斉授業のなかではついていけないところを、個別で対応することで、学力向上につながった。
- 受験生の生徒については、ボランティアに高校受験にむけての学習の仕方や受験についての相談にのってもらうことができた。
- 学習支援を受ける中で、生活面での困りごとともボランティアに相談にのってもらい、生徒の心の安定につながった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 生徒の母国語が話せるボランティアの確保
- 生徒にあった学習教材の準備



【学習の様子】

彦根市	
活動名	放課後学習教室
年間開催日数	34 日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1 人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援員 13 人 <input type="checkbox"/> 教育活動推進員 0 人 <input type="checkbox"/> 教育活動サポーター 0 人 <input checked="" type="checkbox"/> その他ボランティア 計 13 人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの 平均参加人数	水曜 30 人 / 木曜 12 人

■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供し、学力向上をめざす。地域の人とつながる場をつくる。

■ 特徴的な学習支援内容

- 水曜放課後学習では、学習教科は自由で、生徒が学習しようと思う教材を持参して学習しているが、プリントや問題集等は準備して、生徒の希望にあわせて配布や貸出ができるようにしている。
- 木曜放課後学習では、受験直前対策として、生徒の学力にあわせたプリントを使用し、学習支援員がついて支援している。

■ 対象とする生徒

- 水曜日・・・1～3年生 学習会への参加を希望する生徒（6～3月）
- 木曜日・・・3年生 支援が必要な生徒を中心に開催。該当しないが希望する生徒も参加している。（11～全月）

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○水曜放課後学習

「自分が決める」という生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れている。募集チラシは、生徒へ宛てたものにして、欠席する場合は連絡あれば尊重し、無理に引き留めない等、やらされる学習ではなく、主体的に学習する場をつくるよう心掛けている。学習時間は1時間半確保している。

○木曜放課後学習

支援が必要であろう生徒に教員が声がけて参加を促している。
学習会には、必ず3年生担当の教員が2名程度参加し、ボランティアと連携をとって生徒を支援している。

■ 事業の成果

- 水曜放課後学習会では、生徒同士教え合ったり、積極的に学習支援ボランティアに質問したりする姿が多くみられ、それが同室で学習する他の生徒への刺激になるなど、全体の学習意欲を高められた。
- 木曜放課後学習会では、少人数で個々に対応した受験にむけた学習支援ができた。
- 生徒と地域住民である学習支援員との間に繋がりができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 学習支援ボランティアの確保
- 適切な学習教材の準備
- 教員との連携

■ その他

学習支援員は、元教員や元保護司等、毎年支援してくださっている地域の大人がほとんどで、学校や生徒の様子もよくわかってくださっていて、安心して支援をお願いできている。
水曜放課後学習は、これまでの学校主催の形から、地域学校協働本部主催の形に変えたため、先生の会議や学校の行事等に左右されることなく開催できた。



【学習の様子】



【学習の様子】

彦根市		地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	■あり 1人 □なし
活動名	西中学校未来塾 (楽習広場)	学習支援員等人数	学習支援員 11人 教育活動推進員 教育活動サポーター その他ボランティア 計11人
年間開催日数	100日	学習支援員等の属性	□企業人 □行政職員 ■元教員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他
学習形態	■個別の学力補充 □教材を使って一斉学習 □その他 ()	子どもの 平均参加人数	15人
教室のもち方	■放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他 ()		

■ 活動の概要と目的

日々の授業の中において、すべての生徒に学力を保障しなければいけない。しかし、現状としては学習習慣が十分に身につけていないため、一斉授業の中では十分な学力がついているとは言えず、個別の指導が必要である。そのため、学習補充が必要であると考えられる生徒を各教科で選抜し、部活動のない水曜日の放課後に個別指導を行い、学力向上や学力維持に努めたい。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 学年ごとに、国語、数学、英語の三教科をローテーションで行い、専門教科の教員や退職した元教員、大学生の専門性を活かし、どの学年に入るかをその都度決定して配置している。
- (2) 部活動のない水曜日の放課後に実施しているため、時間的にもゆとりをもって学習支援ができる。

■ 対象とする生徒

各学年とも、国語、数学、英語について補充学習が必要であると考えられる生徒を教科担当者が選抜する。その他希望がある場合も受け付ける。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 学習する生徒について、各学年の教科担当者が選抜したり、生徒の自主的な判断で希望も受け入れている。
- 指導する大学生ボランティアの募集については、大学掲示板での呼びかけでは、希望する学生が集まらないため、知り合いを通じて声をかけてもらうことで、より多くの学生を確保することができた。

■ 事業の成果

- どの教科も一週間に一回の学習のため、定着の結果はすぐに出ないが、継続していくことで授業への参加意欲や学習へのやる気が高まってきている。
- 指導する学生ボランティアは、一度、定期的に水曜日に来れるような流れをつくると、次年度も、ある程度は安定して人材確保ができる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 本来は、本校教員が不在でも、学習ボランティア(元教員や大学生)だけで実施できるような体制を作りたい。
- 学習ボランティアの人材確保については、今後も一定の人数確保はできると考えられるが、いつも同じ支援者とは限らず、すべてを任せるような状況にはまだ少し時間がかかる。
- 次年度も、より効果のあがるような教材の精選や作成に取り組むたい。
- また、放課後学習をしたあとに、もう一度、帰宅後に同様の簡単な問題に取り組むことで、より学習の定着度が増し生徒自身も効果を自覚できると考える。



【学習の様子】

彦根市	
活動名 土曜教室 てみる	
年間開催日数	18 日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input type="checkbox"/> 放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1 人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 15 人 教育活動推進員 0 人 教育活動サポーター 0 人 その他ボランティア 0 人 計 15 人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他
子どもの 平均参加人数	12 人

■ 活動の概要と目的

子どもたちの土曜日の教育環境の充実に取り組む「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援事業」として、彦根市内中学校に先駆けて一昨年 9 月から土曜学習支援「土曜教室 てみる」をスタートした。この教室は、学校の教員ではなく、土曜教室コーディネーターと地域の大学生や社会人による学習支援員が運営している。子どもたちへの学習補助や推進員との対話を通じて、学びへの動機付け（来てみる・やってみる・失敗して学ぶ）や将来になりたい姿を見つけることなどをねらいとしている。

- 目的
- ・学習習慣の定着を図る。
 - ・基礎学力を補充する。
 - ・支援員との対話を通してコミュニケーション能力を身につける。
 - ・将来になりたい自分を見つける。

○場所 中央中学校

○期間 平成29年5月～平成30年2月

- 学習内容
- ・100マス計算など、学習へのウォームアップを行う。
 - ・各自の学習課題に取り組む。
 - ・土曜教室で準備している学習教材に取り組む。



【土曜教室の授業風景】

■ 特徴的な活動内容

学習補助による基礎学力の定着と対話によるコミュニケーション能力・社会性の向上を目的に、授業教材・ワーク、プリントを使った自主学習をベースにわからない箇所の指導をしている。

■ 対象とする生徒

中央中学校 1 年生～3 年生の希望する生徒 20 名

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 多くの子どもに参加機会を与えるために、前期 9 回（5～9 月）、後期 9 回（10～2 月）に分けて参加生徒を募集した。
- 学習面では、教室の最初に 100 マス計算や漢字検定プリントを行い、学びへのウォームアップをしている。また生徒の個別ファイル・個別ノートをつくり、教室で使ったプリントなどをその場でファイルに綴じ、自身の学習記録として保存している。
- 一日の学習計画として、プリント⇒宿題・ワーク 40 分⇒休憩 10 分⇒宿題・ワーク 40 分⇒対話としているが、子どものコンディションに合わせて時間配分・学習内容を決定している。
- 学校での教員と生徒の関係ではなく、ナナメの関係で接することを大切にしている。子どもと学習支援員との人間関係を築くために双方が名札を着用する。名札には「好きなこと、はまっていること」などを記載し互いを知るツールとして使っている。関係性が浅い時点では、子どものことを質問するのではなく、先に推進員が自己開示するなど安心感を与えることが大切である。学習指導では「～しなさい」という強制はせず、「～してみる？」という声かけで子どもの自主性を促すことに努めている。

■ 事業の成果

- 定員を 20 名としているが、前期 19 名、後期 20 名の参加申込があった。ただ上記のとおり、実際の出席者は平均 12 名程度であり、10 名余りの推進員とほぼマンツーマンでの学習指導である。場面緘黙など個々に課題を抱える生徒もいて、子ども達にとっては、大変充実した学習の場となっている。また、家庭学習がなかなか定着しない生徒も複数名おり、土曜教室に参加することで、一定時間集中して学習することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 地域人材を活用して推進員を集めるのは大変であり、コーディネーターのつながりで集めているが、その人員確保が大変である。子どもへの学習指導を考えると、推進員の人数も大切であるが、あわせて指導力を充実させることも必要である。

彦根市	
活動名 中央中学校区支援地域協議会 (学び育ち教室 Learning Links)	
年間開催日数	28 日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 毎週月曜夜 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1 人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 14 人 (1 回平均) 教育活動推進員 0 人 教育活動サポーター 0 人 その他ボランティア 1 人 計 15 人
学習支援員等の属性	<input checked="" type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの 平均参加人数	18 人

■ 活動の概要と目的

基礎的な学力の定着と社会性などのコミュニケーション能力の向上、将来のロールモデルとの出会いなどを目的に、毎週月曜日の夜間に地域の公民館で活動している。大学生と社会人が支援員となり、教えてあげる・支援してあげるという上下の関係ではない、ナナメの関係を築くことも大事にしている。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 学習を強要しないこと。子どもと支援員をマンツーマンになるよう配置し、その日の子どもの状態にあわせて学習・交流・休憩を取り入れながら、学習につながる環境づくりをしている。
- (2) ナナメの関係を築くことで、支援員が子どものロールモデルになることや、「ねえ、聞いて」と言える環境づくりをしている。

■ 対象とする生徒

彦根市内の中学生 1 年から 3 年生

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○公民館の所在する市立中央中学校で毎年 5 月に募集チラシの配布による参加者募集をしている。



○子どもと支援員を原則としてマンツーマンになるよう配置し、その日の子どもの状態にあわせて学習・交流・休憩を取り入れながら、学習につながる環境づくりをしている。

【LL教室の様子】

■ 事業の成果

○活動が 5 年目を迎え、中学 1 年生から継続して参加している生徒も 3 年生になり、学校や家庭とは別の第三の居場所として定着している。

○その実績もあり、特に今年度は新たに多くの中学 2 年生や 3 年生が参加している。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○マンツーマン対応を原則としていることから、常に支援員の確保に課題がある。特に今年は中学 3 年生が増え、受験期に近づくにともなう学習ニーズへの十分な対応に苦慮している。

○大学生の支援員は試験や長期休暇、就職活動のため参加できなくなるため、安定的・継続的な活動のためには社会人支援員を開拓する必要がある。そのために学校にかかわる様々な場面で、学習支援活動の紹介と参加勧奨が必要と考えている。

放課後学習「水曜ゼミ」～基礎学力を高めて目指す進路を実現しよう！～

(南中学校)

彦根市		地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	■あり 1人 □なし
活動名 彦根南サポートオフィス（水曜ゼミ）		学習支援員等人数	学習支援員 3人 教育活動推進員 教育活動サポーター その他ボランティア 計3人
年間開催日数	16日	学習支援員等の属性	□企業人 □行政職員 □元教員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 ■その他
学習形態	□個別の学力補充 ■教材を使って一斉学習 □その他（ ）	子どもの 平均参加人数	10人
教室の持ち方	■放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）		

■ 活動の概要と目的

毎週水曜日の放課後1時間「水曜ゼミ」と名付け、学校図書室にて数学・英語・漢字の基礎プリントの学習をしている。これまでの取り組みをベースに、各生徒の目指す進路を実現させるための学力補充を行い、学力の底上げを図っている。

■ 特徴的な学習支援内容

- (1) 学習支援員は現役大学生を中心に募集を行っているため、生徒にとっては年齢も近く、親しみやすい・話しやすい雰囲気の中で静かに学習を進めている。
- (2) プリントは基礎的な内容をまとめた3教科を用意し、各自の学力や得意・不得意に合わせて選択して取り組めるので、コツコツやり遂げることで学習習慣を身につけることにつながっている。



【 水曜ゼミ その1 】

■ 対象とする生徒

学力補充のため、受験を控えた3年生の中で特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象としている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ゼミ参加については3年生全員を対象に募集を行い、その後学力補充が必要と思われる生徒に声をかけて、参加者の絞り込みを行った。
- 参加生徒の個別ファイルを作り、プリントをその場でファイルして自身の学習記録としている。また、学習支援員も振り返りの記録ノートをつけており、学習支援の内容や今後の指導の留意点などを記して、次回のゼミへとつなげている。
- ボランティアの確保に関しては、地域内小学校で行われた夏休み学習教室にお邪魔しボランティアに来ていた大学生にお願いして、水曜ゼミにも協力していただく事ができた。



【 水曜ゼミ その2 】

■ 事業の成果

- 学習意欲がやや低く理解に時間のかかる生徒が多い中、一人一人に丁寧に関わってサポートしていただくことで、学習への苦手意識を取り去り集中力がでてきて、継続的に学習に取り組むことができるようになった。
- 最初は緊張していた生徒も回が進む毎に打ち解けて、学習支援員とのコミュニケーションもスムーズにとれるようになってきた。そのため、水曜ゼミへも楽しそうに参加する姿が見受けられるようになった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 何よりも学習支援員の確保が最優先の課題である。中学生を支援しようという意識の高い方に集まっていたく事の難しさを感じる。また水曜日の3時～4時という時間のため、大学生によっては講義が入る場合があり、学習支援参加への思いを持っていただいても、それができない場合も多くある。
- 中学校の教員を対象にアンケートを実施したところ、他学年にも学習支援を望む意見が多かった。現在は学習支援員の人数と生徒の人数のバランスを考え3年生の一部生徒に限られているが、今後は全学年に亘って実施できるように、支援員やサポーター・地域からのボランティアを募ると共に、曜日・時間の調整をしていかなければならない。

* 今後もこの事業を発展させていこうとするのであれば、行政からのバックアップがもう少し必要と感じる。コーディネーターや関係者の研修会だけではなく、県立大学の学生・県立高校の生徒からの協力を得られるような仕組み作りをお願いしたい。どの地域でも人材の確保に課題を抱えているのではないかとと思われる。学校や地域コーディネーターの力だけでは難しいものがあると感じる。

3年放課後学習会 & 3年放課後学習スペース

(彦根中学校)

彦根市	
活動名 彦根中学校地域未来塾 (3年放課後学習会 & 3年放課後学習スペース)	
年間開催日数	22日 & 25日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ()
教室の持ち方	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 5人 教育活動推進員 0人 教育活動サポーター 0人 その他ボランティア 0人 計5人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他
子どもの 平均参加人数	8人 & 10人

■ 活動の概要と目的

3年生にとって2学期は、部活動を引退した放課後の時間に希望進路の実現に向けて本格的に学習に取り組む時期になる。しかし、一人では家庭学習に取り組めなかったり、何を学習していいのかわからなかったりする生徒もいる。そこで、地域の大学生等の協力を得て、放課後の時間帯に学校で3年放課後学習会を開催している。また、3年放課後学習会とは別に、1学期保護者アンケートで放課後に学習する場を作りたいと要望があり、少人数教室を開放して1時間程度自主学習の場を設けている。

■ 特徴的な学習支援内容

(1) 3年放課後学習会 (月・金実施)

生徒が持ってくる学習教材のわからない問題や、数学と英語の基礎定着プリントに対する取組支援を、学習支援員と教員が5名程度で行っている。

(2) 放課後学習スペース (火・木実施)

生徒の自主学習に対する取組支援を、学習支援員と教員が1名ずつで行っている。

■ 対象とする生徒

○3年放課後学習会は、参加申込書を提出した基礎学力の定着が必要な生徒を対象に実施

○放課後学習スペースは、全ての希望する生徒を対象に実施

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○3年放課後学習会は、前期(10～12月)と後期(1～3月)に分けて、定員10名で参加生徒を募集した。前期は学習支援員が参加可能な曜日(月・金)に月2回ずつ放課後1時間実施し、生徒は8名ずつ参加している。生徒2名に対して学習支援員(教員)1名がついて支援している。各自の課題だけでなく教科の基礎定着プリントを用意して、個々の学力向上につながるようにしている。

○放課後学習スペースは、3年生の希望する生徒を受け入れ、放課後学習会のない曜日(火・木)に月5回程度実施し、生徒は5～15名参加している。各自の課題を自主学習する場として少人数教室を開放し、学習支援員(教員)がついて支援している。



【 学習の様子 】



【 学習の様子 】

■ 事業の成果

家庭学習に取り組めない生徒が、年齢の近い大学生の学習支援員に積極的に質問するなど、1時間の学習にまじめに取り組んでいた。生徒の学力を知っている教員が参加することで、個に応じた学習支援ができた。生徒の感想としては、「わからないことをすぐに教えてくれるので、良かった。」、「家では勉強できないから参加した。いろいろ復習することで、苦手な所もわかってくるので、後期も参加したい。」、「もっと回数を増やしてほしい。」など、意欲的に学習に取り組む場になっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員が2名程度参加可能な曜日で3年放課後学習会を開催したが、学習支援員の都合が悪くなって教員だけで支援している日があった。地域に住んでいる大学生や遠方ではあるが市内の大学の学生に、本校の学習支援員として協力していただけるように積極的に広報活動をして、毎回5名程度の学習支援員の確保が必要である。また、開催時間は授業後の16時～17時となっているため、生徒が下校する時間に冬季は暗くなるため、学習支援員が確保できれば、授業が5時間で終わる毎週水曜日に開催したいと考えている。

前期参加生徒アンケート結果

よくあてはまる・ややあてはまるの割合	
開催日時はよかったですか。	100%
開催回数はよかったですか。	83%
学習内容はよかったですか。	100%
参加してよかったですか。	100%
後期も参加したいですか。	100%

地域未来塾の取組

(鳥居本中学校)

彦根市	
活動名	
鳥居本中学校地域未来塾（学力補充教室）	
年間開催日数	8日
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使って一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）
教室の持ち方	<input type="checkbox"/> 放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）

地域コーディネーター (地域学校協働活動推進員)	<input checked="" type="checkbox"/> あり 1人 <input type="checkbox"/> なし
学習支援員等人数	学習支援員 4人 教育活動推進員 〇人 教育活動サポーター 〇人 その他ボランティア 〇人 計4人
学習支援員等の属性	<input type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他
子どもの 平均参加人数	5人

■ 活動の概要と目的

生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

(1) 基礎的な学力の補充

長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題（ワーク）の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。

■ 対象とする生徒

○進路保障のため、学力の補充を必要とする生徒。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

○参加者の募集については、学力の補充が必要な生徒を教員が選んでいる。

○実施にあたっては、個別に教えてもらえるようにしている。

■ 事業の成果

○生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。

○地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。

○学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

○学習支援をしてくださる地域の方が限定されていて、支援をしてくださる方が今以上に集まらない。

○支援をしてくださる地域の方をどのように集めるかが、大きな課題である。なかなか、学習支援となると、ハードルが高い面があるようで、気軽に来てもらえるような工夫を考えることが重要である。

彦根市学校・家庭・地域連携協力推進事業実行委員会設置要綱

（名称）

第1条 この委員会は、彦根市学校・家庭・地域連携協力推進事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

（目的）

第2条 実行委員会は、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（以下「地域学校協働活動」という。）を推進することを目的として設置する。

（任務）

第3条 実行委員会は、市域での概ね次の各号の事項について調査・研究・協議を行うものとする。

- (1) 事業全体の企画・運営・調査研究に関すること
- (2) 地域コーディネータ、学校支援ボランティアの養成及び連絡調整に関すること
- (3) 事業成果の報告に関すること
- (4) 事業の評価に関すること
- (5) その他必要と認められること

（組織）

第4条 実行委員会の委員は、次に掲げる者のうちから 25 名以内で組織する。

- 2 彦根市教育委員会教育長が委嘱する行政関係者、学校教育関係者、PTA関係者、社会教育関係者（地域コーディネーター）等をもって構成する。

（役員）

第5条 実行委員会に委員長 1 名、副委員長 1 名を置く。

- 2 委員長は、実行委員会を代表して会務を総括する。副委員長は、委員長を補佐する。

（任期）

第6条 委員の任期は、就任した日から当該年度の 3 月 31 日までとする。ただし、欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

- 第7条 実行委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集する。
- 2 会議は、委員長が必要と認めた者に参加を依頼することができる。
 - 3 必要に応じて教育委員会内関係職員による連絡会議を開くことができる。

(部会)

- 第8条 実行委員会に、必要に応じて専門部会を設けることができる。
- 2 専門部会の委員は、実行委員会の委員のほか委員長が必要と認めた者をもって充て、委員長が指名する。
 - 3 専門部会に関する必要な事項は、委員長が定める。

(庶務)

- 第9条 実行委員会の庶務は、彦根市教育委員会事務局教育部生涯学習課において処理する。

(雑則)

- 第10条 この要綱に定めるものの他に、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

平成29年度 学校・家庭・地域連携協力推進事業実行委員
(敬称略)

	氏 名	役 職
1	富永美砂穂	東中学校区地域コーディネーター
2	藤井 和麿	西中学校区地域コーディネーター
3	有馬 裕次	中央中学校区地域コーディネーター
4	木ノ内江以子	南中学校区地域コーディネーター
5	西村 憲治	彦根中学校区地域コーディネーター
6	孫工 昌久	鳥居本中学校区地域コーディネーター
7	北川 浩志	稲枝中学校区地域コーディネーター
8	富田 隆	若葉小学校地域コーディネーター
9	柴田 雅美	学び育ち教室コーディネーター
10	安達 昇	彦根市PTA連協会長
11	藤川 一次	東中学校校長
12	大橋 聖一	西中学校教頭
13	藤堂 寛	中央中学校長
14	疋田 久志	南中学校教頭
15	塚本 幹雄	彦根中学校教頭
16	西澤 徹	鳥居本中学校長
17	山田 孝	稲枝中学校校長
18	矢守ひとみ	若葉小学校校長
19	都築 養子	生涯学習課長
20	清水 貴博	学校教育課長
21	森 貞以子	生涯学習課主幹
22	宮川 智代	学校教育課主事
23	小林 朱実	若葉小学校運営協議会 会長

平成29年度 彦根市地域学校協働本部地域コーディネーター等名簿

No.	氏 名	所属・役職等	住 所(勤務地)
1	富永 美砂穂	東中学校区コーディネーター	彦根市芹川町443 彦根市立東中学校内
2	馬場 敬子	東中学校区コーディネーター	彦根市立城東小学校内
3	安河内 美沙子	東中学校区コーディネーター	彦根市立佐和山小学校内
4	小堀 真知子	東中学校区コーディネーター	彦根市立旭森小学校内
5	藤井 和磨	西中学校区コーディネーター	彦根市金亀町8-1 彦根市立西中学校内
6	大倉 敦子	西中学校区コーディネーター	彦根市立城西小学校内
7	尾田 英昭	西中学校区コーディネーター	彦根市立城西小学校内
8	小山 茂隆	西中学校区コーディネーター	彦根市立城北小学校内
9	有馬 裕次	中央中学校区コーディネーター	彦根市西今町1207 彦根市立中央中学校内
10	柴田 雅美	中央中学校区コーディネーター	彦根市西今町1207 彦根市立中央中学校内
11	小野 忠夫	中央中学校区コーディネーター	彦根市立平田小学校内
12	西村 重晴	中央中学校区コーディネーター	彦根市立金城小学校内
13	木ノ内 江以子	南中学校区コーディネーター	彦根市甘呂町156 彦根市立南中学校内
14	北川 公徹	南中学校区コーディネーター	彦根市立城南小学校内
15	西崎 文雄	南中学校区コーディネーター	彦根市立城陽小学校内
16	岩野 幹夫	南中学校区コーディネーター	彦根市立亀山小学校内
17	雨森 一夫	彦根中学校区コーディネーター	彦根市西葛籠町553 彦根市立彦根中学校内
18	西村 憲治	彦根中学校区コーディネーター	彦根市西葛籠町553 彦根市立彦根中学校内
19	茶木 義三	彦根中学校区コーディネーター	彦根市立河瀬小学校内
20	平塚 寿和子	彦根中学校区コーディネーター	彦根市立高宮小学校内
21	孫工 昌久	鳥居本中学校区コーディネーター	彦根市鳥居本町788彦根市立鳥居本中学校内
22	後藤 絵美子	鳥居本中学校区コーディネーター	彦根市立鳥居本小学校内
23	北川 浩志	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市田原町202 彦根市立稲枝中学校内
24	藤田 治夫	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市田原町202 彦根市立稲枝中学校内
25	田村 宗久	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市立稲枝東小学校内
26	馬場 清行	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市立稲枝西小学校内
27	川瀬 保雄	稲枝中学校区コーディネーター	彦根市立稲枝北小学校内
28	小林 朱実	若葉小学校運営協議会会長	彦根市蓮台寺町181 彦根市立若葉小学校内
29	富田 隆	若葉小学校コーディネーター	彦根市立若葉小学校内

(敬称略)

平成29年度 文部科学省補助事業
「彦根市学校・家庭・地域連携協力推進事業」
地域学校協働本部事業 ・地域未来塾事業
実 践 事 例 集
発 行 平成30年(2018年)2月
彦根市教育委員会事務局教育部生涯学習課
TEL0749-24-7974 FAX0749-23-9190
E-mail syogai@mx.hikone.ed.jp